

定額豫算中臨時ノ場合ニ支出スルカ爲メニ豫備費ヲ置キ町村長ハ豫メ町村會ノ認定ヲ受タルヲ要セシテ豫算外ノ費用又ハ豫算超過ノ費用ニ充ツルコトヲ得但豫備費ヲ以テ町村會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

○議長 可決ト認ム

書記官 西山 朗讀

第九條 町村會ニ於テ豫算表ヲ議決シタルトキハ町村長ヨリ其謄寫ヲ以テ之ヲ收入役ニ交付ス可シ其豫算表中監督官廳若クハ參事會ノ許可ヲ受ク可キ事項アルトキハ(第百廿四條ヨリ第百二十六條ニ至ル)先ツ其許可ヲ受ク可シ

收入役ハ町村長(第六十七條第二項第三)又ハ監督官廳ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス又收入役ハ町村長ノ命令ヲ受クルモ其支出豫算表中ニ豫定ナキカ又

ハ其命令第百八條ノ規定ニ依ラサルトキハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス  
前項ノ規定ニ背キタル支拂ハ總テ收入役ノ責任ニ歸ス

第十條 町村ノ出納ハ毎月例日ヲ定メテ検査シ及毎年少クモ一回臨時検査ヲ爲ス可シ例月検査ハ町村長又ハ其代理者之ヲ爲シ臨時検査ハ町村長又ハ其代理者ノ外町村會ノ互選シタル議員一名以上ノ立會ヲ要ス

第十一條 決算ハ會計年度ノ終ヨリ三ヶ月以内ニ之ヲ結了シ證書類ヲ併セテ收入役

ヨリ之ヲ町村長ニ提出シ町村長ハ之ヲ審査シ意見ヲ附シテ之ヲ町村會ノ認定ニ付ス可シ第六十二條第四項ノ場合ニ於テハ前例ニ依リ町村長ヨリ直ニ之ヲ町村會ニ提出ス可シ其町村會ノ認定ヲ經タルトキハ町村長ハ之ヲ郡長ニ報告ス可シ

第十二條 決算報告ヲ爲ストキハ第四十條ノ例ニ準シテ議長又ハ代理者故障アルモノトシ又收入役職員タルトキハ第四十五條ノ例ニ準シテ其協議議決ニ加ハルコトヲ得

○議長 可決ト認ム

書記官 西山 朗讀

第五章 町村内各部落ノ行政

第十三條 町村内ノ區(第六十四條)又ハ町村内ノ一部落若クハ合併町村(第四條)ニシテ別ニ其區域ヲ存シテ一區ヲ爲スモノ特別ニ財産ヲ所有シ若クハ營造物ヲ設ケ其一區限リ特ニ其費用(第九十八條)ヲ負擔スルトキハ郡參事會ハ其町村會ノ意見ヲ聞キ條例ヲ發行シ財産及營造物ニ關スル事務ノ爲メ區會又ハ區總會ヲ設クルコトヲ得其會議ハ町村會ノ例ヲ適用スルコトヲ得

第十四條 前條ニ記載スル事務ハ町村ノ行政ニ關スル規則ニ依リ町村長之ヲ管理ス可シ但區ノ出納及會計ノ事務ハ之ヲ分別ス可シ

○議長 可決ト認ム

書記官 西山 朗讀  
眞平

第六章 町村組合

第一百五條 數町村ノ事務ヲ共同處分スル爲メ其協議ニ依リ監督官廳ノ許可ヲ得テ其町村ノ組合ヲ設クルコトヲ得

法律上ノ義務ヲ負擔スルニ堪フ可キ資力ヲ有セサル町村ニシテ他ノ町村ト合併(第四條)スルノ協議整ハス又ハ其事情ニ依リ合併ヲ不便ト爲ストキハ郡參事會ノ議決ヲ以テ數町村ノ組合ヲ設ケシムルコトヲ得

第十六條 町村組合ヲ設クルノ協議ヲ爲ストキハ(第十五條第一項)組合會議ノ組織、事務ノ管理方法并其費用ノ支辨方法ヲ併セテ規定ス可シ

前條第二項ノ場合ニ於テハ其關係町村ノ協議ヲ以テ組合費用ノ分擔法等其他必要ノ事項ヲ規定ス可シ若シ其協議整ハサルトキハ郡參事會ニ於テ之ヲ定ム可シ

第十七條 町村組合ハ監督官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ解クコトヲ得ス

○議長 可決ト認ム餘程抄取レリ次條ハ各官ノ修正ヲ要スル所ナレハ今日ハ此ニ止メ明日例起ヨリ開會セン散會セヨ

午後第四時閉場

○明治二十一年一月二十八日 第三讀會續會

議長 大木 喬任  
出席議員

三番	永山 盛輝	二十九番	町田 久成
四番	石井 忠亮	三十番	本田 親雄
六番	宮本 小一	三十一番	長谷部辰連
七番	穴戸 璣	三十三番	津田 出
八番	楠本 正隆	三十四番	小畑 美稻
九番	榎村 正直	三十六番	安藤 則命
十四番	渡邊 清	四十番	綿貫 吉直
十五番	大久保一翁	四十一番	長岡 護美
十六番	伊東 祐賢	四十三番	田邊 太一
十七番	壬生 基修	四十七番	野村 素介
十八番	長與 專齋	四十九番	神田 孝平
二十番	岩村 定高	五十番	三浦 安
二十三番	久我 通久	五十一番	井田 讓
二十六番	河田 景與	五十二番	由利 公正

五十四番	加藤 弘之	六十三番	渡邊 驥
五十五番	調所 廣丈	六十五番	西 周
五十六番	林 友幸	六十九番	上杉 茂憲
五十七番	神山 郡廉		

番外二番	内閣委員法制局參事官	水野 遵
番外三番	内閣委員内務書記官	白根 專一
番外四番	内閣委員内務大臣秘書官	大森 鍾一
番外五番	内閣委員内務省參事官	荒川 邦藏

午前第九時五十分開場

○議長 第五百五十九號議案第三讀會ノ續キ會ヲ開ク

書記官 西山 眞平 朗讀

第七章 町村行政ノ監督

第一百十八條 町村行政ノ監督ハ人口五千未満ノ町村ニ於テハ第一次ニ於テ郡長之ヲ行

ヒ第二次ニ於テ府縣知事之ヲ行フ之ヲ終局トス人口五千以上ノ町村ニ於テハ第一次ニ於テ郡長之ヲ監督シ第二次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第三次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス但法律ニ指定シタル場合ニ於テ郡參事會及府縣參事會ノ參與スルハ別段ナリトス

二十

第一百十九條 此法律中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外凡町村ノ行政ニ關スル郡長若クハ郡參事會ノ處分若クハ裁決ニ不服アル者ハ府縣知事若クハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣知事若クハ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得但第一百十八條ニ從ヒ府縣知事若クハ府縣參事會ノ裁決ヲ以テ終局ト爲ス場合ハ此限ニ在

ヨオ  
町村ノ行政ニ關スル訴願ハ處分書若クハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ二週日以内ニ之ヲ提出シ其理由ヲ陳辯ス可シ但此法律中別ニ期限ヲ定ムルモノハ此限ニ在ラス

此法律中ニ指定スル場合ニ於テ府縣知事若クハ府縣參事會ノ裁決ニ不服アリテ行政裁判所ニ出訴セントスル者ハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ二週日以内ニ出訴ス可シ  
行政裁判所ニ出訴スルコトヲ許シタル場合ニ於テハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス  
訴願及訴訟ヲ提出スルトキハ處分又ハ裁決ノ執行ヲ停止ス但此法律中別ニ規定アリ又ハ官廳ノ意見ニ依リ其停止ノ爲メニ町村ノ公益ニ害アリト爲ストキハ此限ニ在ラス

○議長 發議ナキヲ以テ本案可ト決シ次條ニ移ル

書記官 西山 眞平 朗讀

第二百十條 監督官廳ハ町村行政ノ法律命令ニ背戾セ本及其事務錯亂溢滞セサルヤ否ヲ監視ス可シ監督官廳ハ之カ爲メニ行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ豫算及決算等ノ書類帳簿ヲ徴シ并實地ニ就テ事務ノ現況ヲ視察シ出納ヲ檢閲スルノ權ヲ有ス

第二百十一條 町村又ハ其組合ニ於テ法律勅令ニ依テ負擔シ又ハ官廳ノ職權ニ依テ命令スル所ノ支出ヲ定額豫算ニ載セス又ハ臨時之ヲ承認セス又ハ實行セサルトキハ郡長ハ理由ヲ示シテ其支出額ヲ定額豫算表又ハ其臨時支出額ノ内ニ加ヘシム可シ町村又ハ其組合ニ於テ前項ノ處分ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

出席

十三番 伊集院兼寬

二十八番

原田 一道

○議長 本案可決ト認メ次條ニ移ル

書記官 西山 朗讀

第二百十二條 凡町村會ニ於テ議決ス可キ事件ヲ議決セサルトキハ郡參事會代テ之ヲ議決ス可シ

第二百十三條 內務大臣ハ町村會ヲ解散セシムルコトヲ得解散ヲ命シタル場合ニ於テハ同時ニ三ヶ月以内更ニ議員ヲ改選ス可キコトヲ命ス可シ但改選町村會ノ集會スル

迄ハ郡參事會町村會ニ代テ一切ノ事件ヲ議決ス

第二百十四條 左ノ事件ニ關スル町村會ノ議決ハ內務大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

- 一 町村條例ヲ設ケ并改正スル事
- 二 學藝美術ニ關シ又ハ歷史上貴重ノ物品ヲ賣却讓與シ若クハ大ナク變更ヲ爲ス事

前項第一ノ場合ニ於テ人口壹萬以上ノ町村ニ係ルトキハ勅裁ヲ經テ之ヲ許可ス可シ

出席

六十八番

岡内 重俊

○外三番 白根

第二百十五條ノ修正ニ對シ特ニ一言セン修正委員ハ末項ノ人口壹萬以上ノ町村ニ係ルトキノ十數字ヲ削除セリ僅々ノ文字ナルモ其係ル所甚タ大ナリ今日

第三議會ニ當リ喋々セントスルハ眞ニ已ムヲ得サル者アツテナリ抑々本案ニ掲ケタル如ク一々勅裁ヲ經テ之ヲ許可スルハ正則タルニ相違ナカル可キモ萬事萬物正則通りニ墨守シ難キモノアリ個ハ實行シ得ラル可キカ將タ實行シ能ハサルカヲ仔細ニ思考シ實行シ得ラル可キモノハ固ヨリ正則ニ從フ可キモ到底實行シ能ハサル事柄ヲハ如何ニ正則ナレハトテ一モ二モ無ク之ヲ行ハントスルハ寧ろ失計ナラン假令善良ノ法律ナルモ實際ニ適セサレハ是レ徒法ノミ町村條例第十條ニ特ニ條例ヲ設ケテ之ヲ規定スルコトヲ得又第二百三十條ニ町村條例ヲ以テ定ム可キ事項ハ云々一々其特例ヲ掲載セリ其條

例ヲ設ケテ以テ規定ス可キ事項甚タ夥多ナラン今日現在戸長役場ノ數一萬千餘箇所アリ今後ハ一萬二千ニモ上ル可キカ其多數ニシテ且込ミ入りタル條例ヲ一々勅裁ヲ經テ許可スルハ難事ニ非スヤ殊ニ町村會ノ議決セシ所果シテ其當ヲ得シモノナリヤ或ハ其所其者ノ所爲ニ出テ別ニ調査ヲ要スルモ有ラン必ス一定シ難シ又之ヲ改正スルニ於ル種々ノ事情ニ因リ様々ノ變換アル可シ一町村ニ於テハ一條例ナルモ之ヲ集合スレハ萬餘ノ多キニ至ラン之ヲ悉ク勅裁ヲ經テ許可スルハ獨リ手數ノ多端ノミナラス之ヲ執行スルニ於テモ勢ヒ遲滯スルヲ免レサル可シ初メ之ヲ町村會ニ議定シ管廳ヲ經テ內務省ニ出シ內務省審議ノ末內務大臣之ヲ上奏シ勅裁ヲ經テ然ル後ニ許可スル運ヒナレハ手數ト日時ノ費ヘハ云フマテモ無キモ之レ果シテ爲シ得ヘキ事柄ナリヤ否ヤ世ニハ理屈ハ尤モニシテ實際行ハレサル事アリ即チ是等ノ謂ヒナランカ若シ又悉ク勅裁ヲ經スレテ內務大臣限り之ヲ許可セハ人民感觸惡シカル可キモ之ヲ分別シ其著大ナルモノヲ選ミ此レ丈ケハ陛下御親裁アル可ク又是ヨリ以下ハ陛下ハ內務大臣ニ委任シテ代覽セシムルモノト本則ニ於テ決定セハ更ニ妨ケ無ル可シ此人口壹萬以上云々ノ數字係ル所大ナリ願クハ原案ニ復センコトヲ滿場各位ニ望ム

○十四番 渡邊 本官第二百二十五條ニ對シ修正說ヲ提出セン追々勸考スルニ第二百二十五條町村條例ヲ設ケ并ニ之ヲ改正スルニハ勅裁ヲ經テ後チ許可ス可キハ固ヨリ肝要ノ事ナル可キモ一般ノ條例ヲ舉ケ皆悉ク勅裁ヲ經テ許可スルハ特ニ陛下ニ在テモ日々數十通ノ條例ヲ御覽在ラサセサルヲ得サル恐レ有リ又其町村ニテモ幾多ノ時日ヲ費サハル能

ハス町村ノ事ハ先ツ姑ク置キ陛下萬機ヲ裁シ玉フノ御暇ナキニ加フルニ此繁雜ノ事件ヲ以テスルハ恐レテモ尙ホ餘リ有リ殊ニ町村條例ニハ罰則アリ過怠金アリ彼此ノ權衡其宜シキヲ得セシムルハ實ニ容易ノ業ニ非ス本案施行ノ後ハ主務者ノ手數一層多キヲ加ヘン苟モ之ヲ等閑視シ獨リ名義ノ立派ナルヲ慕フ様ニテハ些少ノ失誤モ其極聖德ノ累ヒタラサルヲ得ス故ニ本官之ヲ修正シ前項第一ノ場合ニ於テハ勅裁ヲ經テ之ヲ許可ス可シ但勅旨ヲ以テ內務大臣ニ委任セラルハコトアル可シ箇様ニセハ庶幾クハ實際ニ適ス可キカ個ハ內務大臣ノ權内ニ委シテ可ナリト思惟スルモ事ヲ鄭重ニシ且執レカ正則ト云ヘハ勅裁ヲ以テスルニ在ルヘケレハ原案及ヒ修正案ノ精神ヲ助ケ斯ク修正セントス

○議長 十四番ノ修正說ハ賛成者ナキヲ以テ消滅ス

○九番 榎村 十四番ノ說消滅セシヲ以テ本官別ニ意見ヲ提出セン此項ノ取扱方大ニ懸念ナキ能ハス名ハ單ニ町村條例ナルモ之ヲ集合スレハ實ニ千萬ノ多キニ至リ些少ノ改正モ勅裁ヲ經ルニ非サレハ許可スル能ハストスルハ如何ニモ手數ノ事ニテ陛下ノ御親覽ヲ經ヘキ者斯ク多端ニ涉ルハ大ニ憚ル可キ所ニ非スヤ原案ノ如ク人口壹萬以上ノ町村トスレハ其數モ減シ且ツ其大ナルモノヲ取テ之ヲ行フハ其小ナルモノニモ聖意ヲ及ホスノ理ナレハ稍ヤ實際ニ行ハル可キモ本案ノ如ク悉ク勅裁ヲ經ルモノトセハ實ニ實行シ能ハサルノミナラス萬一失誤アレハ甚タ恐レ多キ場合トナラン本官之ヲ考フルニ本條ニ於テ此項ノ設ケナキモ聊カ差支無カル可シ因テ本官ハ之ヲ刪除セントス假令此項

ナキモ御親裁ニナル可キハ勿論ナリ只此ニ文面ニ現ハスト現ハサ、ルトニ於テ前後ノ  
動キノ付クト付カサルトノ差アリ之レ自然ニ聖德ニ關係スル有レハ成ル可ク内場ニ事  
ヲ計ルニ如カス而シテ町村ノ大小繁間ニ依リ自ラ其次第モ有ル可シ是等ハ法律上文字  
ノ有無ニ拘ラス別ニ内定スル有ツテ可ナラン本官試ニ此項ノ削除説ヲ提出ス其問題ヲ  
ランコトヲ望ム

○二十六番 河田景興 賛成

○六番 宮本一 賛成ス其理由ハ九番説キ盡セリ十四番ノ修正説可ナラサルニ非サルモ全体  
此等ノ事柄ハ内務大臣ノ許可ヲ得ハ直ニ之ヲ施行スルモ妨ケ無ル可シ各省大臣ハ天皇  
ニ代リ省務ヲ主宰スル者ナリ就中地方ノ政務ハ内務大臣ノ責任ニ在レハ之ヲ一々勅裁  
ヲ經テスルハ却テ其体裁ヲ得サルカ如シ尤内輪ニテハ勅裁ヲ請フテ許可スル固ヨリ可  
ナラン外國トノ條約書ニ御批ヲ與フルカ如キハ重大ノ事件ナレハナリ之ヲ町村條例ニ  
用ヒ朕何々町村ノ條例ヲ裁可スト云フカ如キ有ラハ是ヨリ萬事輕忽ニ流ル、ノ嫌ヒ有  
リ況ヤ初メテノ町村條例ナレハ幾萬通ノ多キニ至ルヲ知ラサルヲヤ且既ニ幾萬通ノ多  
キノミナラス其改正ヲ要スルモノ隨テ多ク此五七年間ハ殊ニ多端ナル可シ内務大臣ニ  
於テ一々之ヲ閱覽スルモ其實繁ニ堪ヘサル所ナラン其區々ノ修正アラシヨリハ寧ロ丸  
テ之ヲ削ルノ優レルニ如カサル可シ

○三十番 本田親雄 賛成

○五十六番 幸林友 賛成

○五十二番 由利公正 賛成

○四十三番 田邊太一 賛成

○議長 九番ノ動議ハ定數ノ賛成者アルヲ以テ之ヲ問題トス

○八番 楠本正隆 第二百二十五條ノ人口壹萬以上云々ヲ削リタル理由ヲ述ヘ併セテ問題説ニ

反對スル所以ヲ明サン蓋シ町村ニ於ル町村條例ハ國家ニ於ル憲法ノ如ク各町村ハ之  
レニ賴テ以テ自治体ヲ全フシ獨立ノ運動ヲ遂ルモノナリ本官之カ調査ニ從事シ其成例  
ヲ外國ニ求ムルニ咸ナ君主ノ勅裁ニ成ラサルハ無シ個ハ町村條例ノ信憑ヲシテ重カラ  
シムルカ爲メナリ然ルヲ原案ニテ人口壹萬以上ノ町村ノミヲ取テ勅裁ヲ經テ許可スト  
定メタルハ何等ノ故ヘナリヤ更ニ其意ヲ解スル能ハス何ソ町村ノ大小人口ノ多寡ヲ以  
テ其條例ヲ輕重スルノ理アラシヤ或ハ主上ノ御繁忙ヲ加フルヲ恐ルト云フ是レ甚ダ本  
官等ノ疑フ所ナリ抑モ立憲政体ヲ創設シ聖天子親ヲ萬機ヲ統ヘ玉ハントスルニ際會シ  
町村ノ自治ヲ許シ其町村ノ憲法トモ云フ可キ條例ヲ立アシメ其宜シキヲ得セシメ玉ハ  
ントスルハ素ヨリ聖慮望マセラル、所ナリ本官モ其始メハ町村條例ノ外府縣條例郡條  
例等モ有ル可キナレハ町村條例ハ内務大臣ニテ許可シテ可ナラント思ヒシカ再考スル  
ニ及ヒ其誤謬ナルヲ悟レリ其故ハ一町村内ニ執行スル條例ナルモ終ニハ立法上ノ大權  
ニ係リ即チ退隱料ヲ給スルト給セサルト又ハ給料ヲ與フルト與ヘサルトノ如キ皆條例  
ノ定ムル所ニ依レハナリ豈ニ重大ノ事柄ニ非スヤ是レ必ス町村ノ小ト雖モ勅裁ヲ經テ  
而シテ後ニ許可ス可キモノナリ斯クセサルハ一町村ノ安寧ヲ保チ幸福ヲ進ムル所以

ノ主旨ニ反セン畢竟原案ハ獨乙國等ノ例ニ依リ最初ハ皆悉ク勅裁ヲ經テ許可ス可キ手續ナリシニ中途ヨリ其多端ヲ避クルト爲シ人口ニ階級ヲ立テ之ヲ分別セシハ一向ニ其意ヲ得サル所ナリ故ニ本官等修正委員ハ人口ニ依リ階級ヲ定メタルモノハ悉ク之ヲ削除シ町村ノ大小ヲ問ハス皆均一ノ法則ト爲シタリ其繁劇ナリ多忙ナリト云フヲ以テ爲ス可キ事柄ヲ省クハ政事上決シテ有ルマシキ道理ニテ結局行政官ノ行務ヲ粗漏ニ取扱フノ流弊ヲ來サン要スルニ繁ノ一字ノ爲メ此重大ナル政務ヲ等閑ニ付シ去ラントスルハ極メテ薄弱ノ論趣ニシテ修正案ヲ動スニ足ラサルナリ

○五十四番加藤問題說ニ對シ八番ノ述ル所頗ル其當ヲ得タリ本官等始メ修正委員會ニテ此事ヲ主持セシニ内閣委員ハ是非ニ人口一萬以上ニ限リ勅裁ヲ經ルコトニセント云ヒ或說ニハ丸テ本項ヲ削ラント云ヒ兩說共ニ論題ト爲リシモ本官等悉ク不同意ニテ就中人口ニ依リ段階ヲ立ルヲ嫌ヒ本項ハ勿論監督權ニ於テモ皆之ヲ省キ町村ノ大小ヲ問ハス悉ク均一ニセリ内閣委員ハ段階ヲ削ルニハ強ク異議ナキモ勅裁ヲ經ヘキモノ、多キヲ恐ルト然シ一タヒ之ヲ施行スル上ハ左マテノ手數ニハ非サル可シ初メ當否ヲ調査スルハ一定ノ法式ニ依リ内務省主任官精シク之ヲ閱讀シ内務大臣可ト認定シテ奏聞スルヲ以テ御親覽ノ際ハ最早聖慮ヲ煩シ奉ル可キ程ノ事ハ無カル可シ且町村ノ多キニハ相違ナキモ一齊ニ施行スル曉ニハ一二ノ條例ヲ充分ニ調査セハ他ハ順々ニ之レニ則ルヲ以テ敢テ繁ニ堪ヘストスル程ノ事ニハ至ラサル可シ左スレハ人口一萬以上以下ニテ勅裁ヲ經ルト經サルトノ分界ヲ立ルハ素ヨリ其理ニ當ラス今ヤ問題ハ丸テ此項ヲ削ラ

ント云フ之ヲ削ラハ如何ナル結果ニナル可キヤ果シテ内務大臣限リニ許可スルモノナランカ抑、此條例ハ一町村ニ取テハ無上ノ憲法ノ如ク根本ノ法律ナリ之ヲ許可スルニ勅裁ノ重キヲ以テスルハ誠ニ當然ノ事ニテ現ニ歐洲文明國ノ例ニ於テモ然リトス曾テ委員會ニテ一說アリシヲ記憶ス其說ニ曰ク此ニ勅裁云々掲ク可カラス何トナレハ人ヲシテ是マテ大小ノ事皆陛下ノ御親裁ニ出シモノト思ハシメシニ此條例ヲ見ルニ及ンテ僅カニ町村條例ヲ親裁シ玉フヲ見ル然ラハ陛下ノ御自身ノ裁決ヲ經ル事件ハ僅少ナリトスル想像ヲ與ヘ不都合ナリ之ヲ削ルニ如カスト一應尤モナルモ萬機御親裁ニ出ルトテ大小ノ事悉ク親裁シ玉フ能ハサルハ申スマテモ無キコトニテ大事ハ親裁シ玉ヒ小事ハ宰臣ニ御委任アル可キ筈勿論ナレハ却テ此ニ其重キハ勅裁ニ成ルヲ知ラシメ町村條例ノ聲價ヲシテ重カラシメ重大ナル町村ノ法律タルヲ感セシム可シ例ヘハ町村自治ノ町村條例ハ陛下ノ親シク裁シ玉フ所ヲ示シ町村監督ノ權ハ内務大臣以下ニ委任セララル、等輕重ノ分アルヲ明カニセハ人民其向フ所ヲ知り町村ノ自治ハ立憲政體ノ基礎ニシテ其自治ヲ許シ玉フ條例ナレハ陛下ノ親ラ裁セラル、ノ忝ナキヲ奉體セン修正案ハ大ニ此ニ見ル所アルナリ問題說ノ成立セサルヲ望ム

○森外四番大森問題說ハ以テ、外ノ考案ナリトス勅裁ヲ經テ許可ストハ抑モ何等ノ爲メニセシモノナリヤヲ分別セシムハ非ス此勅裁ハ固ヨリ重件ナルハ言フ俟タス從來曾テ此ノ條例ヲ設ケ有ル無ク全ク任放シテ顧ミス而シテ今日マテ町村ノ治ヲ爲セシハ手短カニ云ヘハ只行政官ノ手心ニテ取扱タリト云フニ過キス僅カニ町村會法アリト雖正範

國極メテ狹隘ナリ今日自治制度ヲ設クル上ハ諸般ノ事法律ヲ以テ定メ町村制度ノ確立ヲ要スルハ實ニ廟議ノ希望スル所ニシテ其大權ノ歸スル所孰レニ在リヤト云ヘハ申スマテモ無ク天皇陛下ノ御主權ニ在リ然レハ勅裁ヲ以テ許可スルハ實ニ正則木式タリ修正委員ノ人口壹萬以上云々ヲ削リタルモ全ク其意ヲ擴充スルニ在リ然レハ強テ異議ヲ容ル可キニ非サルモ殊ニ内閣委員ノ欲スル所ハ假令正式ナレハトテ一萬有餘ノ町村條例ヲ舉テ皆悉ク勅裁ヲ仰クコトハ爲シ得可キ事柄ニ非ラサルヲ察シ實ハ勅裁ニ出ツ可キモノナルモ其多數ノ末ノ末マテニ及フ能ハサルヲ以テ人口壹萬未滿ノ町村ハ内務大臣ニ委任セラレ其一萬以上ノ町村ハ勅裁ニ出ルヲ明示セハ全体ニ涉リ勅裁ニ出ルノ實モ相知レ又御主權ノ所在モ明確ニシテ萬端ノ都合ナルヲ以テナリ然ルヲ丸切り削除セハ勅裁ニ出ツ可キ要件モ遂ニ此所ヨリ除去スル譯ケニテ決シテ原案ノ意ニアラサルナリ畢竟原案精神ノ徹底セサル故此ノ如キ說アラシモ抑モ町村ニテ町村條例ヲ制定シ政府ノ許可ヲ得テ之レヲ施行スルハ恰モ一國政府ノ法律勅令ヲ發シ人民ヲシテ之ヲ遵奉セシムルカ如ク彼此敢テ輕重ナシ然レ其數ノ多キ千萬ニモ上ル可ケレハ陛下ニ對シ奉リ一々ニ御裁可ヲ請フハ恐レ多キヲ以テ其衷ヲ取リ人戸一萬以上ヲ以テセリ且各自ノ町村ニ於ル町村條例ノ一箇條ノ變更ヲモ必ス勅裁ヲ經ルハ鄭重ヲ盡スノ道ナルヘケレト物ニハ大抵度アリ其繁務ハ内務大臣ニ委シ大体ヲ誤ラス其御主權ヲ損セサレハ非常ノ御手數ノ懸ル細務ハ之ヲ除テ可ナラン然リト雖此人口壹萬以上云々ノ文字ヲ存セントスル議論ヨリシテ法律上ニ勅裁ヲ得テ許可スル大眼目マテ除去スルハ萬々不可ナ

○三十六番 安藤 削除說ニハ不同意ナリ追々勘考スルニ内閣委員ノ言ノ如ク原案ノ通りニシテ存セハ更ニ差支ナシ

○五十番 三浦 問題說ニ對シ一言セン前キニ十四番ノ說ハ行ハレスシテ止ム只今ノ問題

說ハ隨分思ヒ切ツタル論ナリ其故ハ人口一萬以上ニ限り勅裁ヲ得テ許可ス可キトノ事ハ不公平ナリ寧ロ本項ヲ削リ總テ内務大臣限り許可ス可キモノトスルニ在レハナリ之レ一理アル說ナルモ本官ハ之ヲ贊成スルコト能ハス又番外四番ハ勅裁ハ必ス經サル可カラス然シ一般ニ之ヲ行フ能ハサレハ人口壹萬以上ノ町村ニノミ此本則ヲ用ント云フ原案主持說尤モナルモ修正委員會ニテハ其人口多少ニ依リ町村ノ尊卑ヲ分チ輕重ヲ付スルハ不條理ナリトシ町村長選舉ノ認可權又ハ町村長有給無給ノ別又ハ町村行政ノ監督權等苟モ人口多寡ニ依リ區別セシモノハ悉ク平等均一ノ制ニ改メタリ然ラハ今更本項ノ一萬以上云々ノミ存ス可キ條理ナシ且町村條例ノ重キ必ス勅裁ヲ經テ許可スルハ本則ナル旨ヲ辯シ乍ラ一方ニハ人口壹萬未滿ノ町村ノ條例ハ勅裁ヲ經ルヲ須ヒス内務大臣ニ委任シテ之ヲ行ハシメントスルハ一事兩議ニ涉リ最モ難澁ノ說ナリトス是レ僅カニ勅裁ノ看板ヲ掲ケタルニ過キス焉ツ人ヲシテ其本則タルヲ認メシムルヲ得ンヤ如カス修正案ノ如ク町村條例ハ此町村制ニ亞ク地方太切ノ法律タルノ實アルヲ示サンニハ或ハ一萬以上云々ヲ存スルヨリハ問題ノ本項丸テ削除スル說ノ斷然タル稍ヤ優レリトスルモ矢張修正案ノ本則正式タルニ從マテ以テ最上トス又或說ニハ聖天子萬機ヲ聞



食シ御餘暇ナキニ此複雜ナル條例ノ裁可ヲ奏請スルハ恐レ有リト此言反對説ノ骨子ナルモ本官ノ見聞スル所ヲ以テスルハ幾十條ノ多キ法律勅令ノ數日ヲ要セス僅々二三日間ニ整頓シテ發表スルコト間マ之レ有リ是レ必ス其大体ヲ御親覽在セラレ其細節ハ在廷諸臣ニ委任在ラセラル、ノ致ス所ナラン故ニ町村條例ノ如キモ内務大臣ヨリ詳細ニ調査シテ上奏セハ陛下御親覽遊ハサレ時トシテハ御通讀成リ難キ程ノ事モ有ル可シ其際陛下ハ却テ國家繁盛ニシテ疆域彌、開クルヲ御滿悅遊ハサル可シト恐察ス若シ之レニ反シ事務極、テ僅少ナレハ我國衰微ノ徵トシテ必ス宸憂在ラセラル、御事ト推量シ奉ルナリ問題説ニ決スル無キヲ望ム

○九番旗村 本官ノ修正問題ニ上リタル上ハ尙ホ一言辯セサルヲ得ス本官ノ陳フル所誤聞セラレタル有リ又反對論者中ニ委員會ノ中ニ云々ト述フル有リ之レ入ラサル事ナリ全体其行ハレサル事柄ヲ強テ果サントスルハ最モ不都合ナル可シ又町村條例ハ今回初メテ定ムル所ニテ人民ノ權利義務ニ關シ且政權ヲ分與セラル、事ナレハ必ス勅裁ニ成ルヲ要スト云フ然レ其事實ハ此町村制ヲ以テ此ノ如クニシテ町村條例ヲ設ケヨト差示サル、ナレハ其大体ハ本案ニ依リ定マル所ナルヲ知ル可シ又人口一萬以上云々ヲ除キタルハ正則ニ適ハシメントスルナレハ敢テ異論ナカル可キ筈ナリト云フ然レ如何ヘン實際行フ可カラスト云フ最モ肝要ニ屬スル部分ニ故障アレハ勢ヒ異論ナキ能ハサルナリ其行ハレサル事柄ヲ強テ記載セントスルハ申スマテモ無キ徒法ナリ本官ハ徒法タルヲ欲セス蓋シ其改正マテモ勅裁ニ出テシメントスレハ其員數ノ夥多ナル之ヲ十箇

年ニ分割スルモ一歲大抵一千有餘通ノ多キ有ラン實ニ御繁劇ニ堪ユル能ハス然ラハ獨リ徒法ノミナラス萬機御親裁ノ上ニ就キ實ニ云フ可ラサル御差支ヲ生セン是レ本官ノ此項ヲ全削セント欲スル所以ナリ又一説ニハ小町村ノ條例ハ内務大臣ニ委任シ大町村ノ條例ノミ勅裁ヲ得テ許可セハ其本式ヲ失ハスレテ可ナラント是又本官ノ與セサル所ナリ共ニ自治區タル一町村ナルニ何ソ人口ノ多少ヲ以テ之ヲ輕重スルノ理アラシヤ又或ハ町村條例ノ改正ニハ勅裁ヲ得ルヲ要セサル可シト云フモ其初メ勅裁ヲ經テ設ケタル條例ナルニ之ヲ己レノ自由ニ改正スルヲ得セシメハ之レ取リモ直サス詔命ヲ矯ムルト云フ可キモノナリ前後必ス一様ナラサル可カラズ箇様ニ論シ來レハ修正案ハ實際決シテ行ハル、事ニ非ラス假リニ一步ヲ讓リ行ハル、モノトスルモ實ニ容易ナラサル御手數ニテ大事件ノ勅裁ニ成ルノ妨ケトナル可シ然ルヲ某官ハ之ヲ難シテ曰ク政府ハ數十條ノ多キ法令モ一二日間ニ決行セラル、事アリ然ラハ町村條例ノ裁定ニ於ル其大体ヲ御認許ニナレハ可ナラント是レ以前事ノ多端ナラサリシ時世ノ事ナリ今日萬機御繁務ノ場合ト同シカラス又我國次第版圖廣マリ町村ノ數モ一倍二倍ト漸次ニ増加シ其數一萬二萬ニ及ヘハ聖上ハ之ヲ厭ハセラル、事ナキノミナラス結局御悅ヒ有ル可シト云フ是又本官ト其見ヲ異ニス大國ニナルニ隨ヒ御手許ノ御政務ハ益ス簡易ニ爲リ其大ナル所ニ御注目在ラセラレ彌、國家隆治ニ赴ク可キノ宏謨ヲ立サセ玉フナル可シ本官ハ夙ニ垂拱シテ天下治マルヲ欲ス且主トシテ之ヲ削ルヲ論スルハ一ニハ無用ノ御繁務ヲ省キ二ニハ政務ノ骨子ヲシテ強大ナラシメントス本案ノ如ク一々明掲シ他日ノ憂ヒヲ

生セシムルヲ欲セサルナリ本日ハ秘密會ナレハ他ニ憚ラス敢テ之ヲ陳フルモ抑々目下世上ノ風説ヲ承ルニ維新ノ際詔セラレタル五箇條ノ御誓文ニ對シ以テ議論ノ種子ト爲シ彼此政府ニ抗セントスルモノ、如シ今日ハ前日ト其情況ヲ異ニシテモ議論ノ容ル可キ間隙アレハ民間不平黨言ヲ建ルノ要具ト爲シ假初メノ片言モ必ス政府ノ變約ヲ唱フル有様ナレハ言ハスシテ意ヲ達スルモノハ言ナキニ如カス此勅裁云々ノ事亦然リ御多端ノ折柄勅裁ヲ奏請シ萬一此條例ニ瑕瑾ノ有ル在ラハ其時如何アル可キツ大抵世論ノ嗽々ヲ來スヲ免レサル可シ是レ本官ノ此所ニ之ヲ掲クルヲ欲セサル所以ナリ假令此ニ之ヲ掲ケス諸大臣ノ責任中ニ入ル、モ其勅裁ヲ乞フ可キハ當然之ヲ乞フナル可シ決シテ聖天子ノ御覽ニ入レサルニ非ラス況ヤ異例變則ノ其間ニ生スルカ如キ無論勅裁ヲ經テ決ス可キニ於テヲヤ故ニ都テ一應ハ必ス叙覽ニナルモ表面ニ於テハ內務大臣ニ御任セニ爲リタルモノトスルヲ可トス此ニ斯ク掲載セハ啻ニ萬機御裁決ノ障害ヲ爲サンヲ恐ル、ノミナラス往々民間ニ議論ヲ容ル、ノ便地ヲ與ヘ將來何ニカノ御妨ケト爲ル有ラン旁以テ此削除説ヲ主持ス

○五十一番 井田 問題説ニハ不贊成ナリ九番ハ此勅裁云々ノ文字アリテハ將來彼是ノ議論ヲ來サンコトヲ憂フト云フ本官ハ此勅裁云々ノ文字ナキトハ却テ云フ可カラサル憂ヒノ來ランコトヲ恐ル、ナリ看ヨ將來日本ノ成立ハ何ニ據テ隆盛ヲ致ス可キヤ唯是レ君民一体公明正大ノ治ヲ爲スニ在リ左レハコソ全國ハ陛下ノ御所有地トモ申ス可キヲ地券ヲ發シテ土地ノ所有權ヲ人民ニ與ヘ給ヒ又此度ハ政權ノ一部ヲ割キ町村自治ヲ許シ

政事幾分ヲ負擔セシメ給フ是レ區々權柄ニ懸々スル尋常ノ及フ所ニ非ス實ニ聖德公明古今ニ亘ル所ニ非スヤ然ルヲ勅裁云々ヲ掲ケハ萬一御手拔ケ有ルキハ御誓文ニ對スル議論ト地租輕減ノ苦情ノ如キヲ致スヲ以テ先ツハ御覽ニ爲ル事ヲハ表明セシテ萬事大臣ニ御委任ニ在ルヲ示ス可シト是レ何ノ言ツヤ本官ノ思惟スル所ハ此町村條例裁可ノ件ハ決シテ內務大臣ト雖御任セニ爲ル可キ筈ナキモノト抑々御誓文ニ對スル論又ハ地租輕減云々ニ關シ物議アルノ例ヲ引用セシモ個ハ其比例當ヲ得ス此町村條例ヲ勅裁シ玉フハ從前ヨリ曾テ御掌握在セラレタル御持物ヲ分與シ給フ場合ニハ御主權ヲ傷ケス又之ヲ穢ササランコトヲ思食シ御親裁ニ爲ル譯ケナレハ決シテ他事ヲ以テ此事ニ比擬ス可キニ非ス九番ノ憂ヒハ無用ノ憂ヒナリ又九番ハ町村條例ヲ以テ些細ノ事柄ト爲スカ如シ是レモ大ナル間違ナラン此町村條例ハ即チ町村ノ憲法ナリ治國ノ基礎ナリ斯ル緊要ナル法律ヲ認メ瑣々タル事ノ如ク放着シ去ルハ如何ニモ聞ヘサル所見トス是レ決シテ削ル可キ理由ナシ若シ九番ノ如キ説ニテ之ヲ除クヲ得ハ本案中ノ大骨子タル條件ヲ理モ無ク譯モ無ク削ルト云フモノナリ此勅裁云々ヲ掲クルハ聖天子ノ人民ヲ愛撫シ之ヲ慎重スルノ實ヲ示サセ玉フ所ナリ之ヲ削ラハ其主眼ヲ無ニスルモノト云ハサルヲ得ス本官ハ此眼目タルモノハ飽マテ主持セサルヲ得ス

○議長 討論盡キタルヲ以テ決ヲ取ラン九番ノ動議ヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者十八

○議長 少數ナルヲ以テ九番ノ修正説ハ消滅ス

○議長 他ニ發議ナキヲ以テ本案ニ可決シ次條ニ移ル

書記官 西山 朗讀

第二百二十五條 左ノ事件ニ關スル町村會ノ議決ハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一 新ニ町村ノ負擔ヲ起シ又ハ新ニ公債ヲ募集シテ負債ヲ増加シ及第五百五條第二項ノ例ニ違フモノ但償還期限三年以内ノモノハ此限ニ在ラス

二 特別町村稅并使用料手数料ヲ新設シ増額シ又ハ變更スル事

三 地租七分ノ一其他直接國稅百分ノ五十ヲ超過スル割増稅ヲ賦課スル事

四 間接國稅ニ附加スル割増稅ヲ賦課スル事

五 法律勅令ノ規定ニ依リ官廳ヨリ歩合ノ金額ヲ補助スル支出ヲ定ムル事

第二百二十六條 左ノ事件ニ關スル町村會ノ議決ハ郡參事會ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一 町村ノ營造物ニ關スル規則ヲ設ケ并改正スル事

二 基本財産ノ處分ニ關スル事(第八十條)

三 町村有不動産ノ賣却讓與并質入書入ヲ爲ス事

四 各個人直接ニ使用スル町村有地使用法ノ變更ヲ爲ス事(第八十五條)

五 各種ノ保證ヲ與フル事

六 法律勅令ニ依テ負擔スル義務ニ非スシテ向五ヶ年以上ニ亘リ新ニ町村屬民ニ負擔ヲ課スル事

七 均一ノ稅率ニ據ラスシテ國稅府縣稅ニ附加セル割増稅ヲ賦課スル事(第八十九條第二項)

八 第九十八條ニ從ヒ數個人又ハ町村内ノ一部落ニ課稅スル事

九 第百條ノ準率ニ據ラスシテ夫役及現品ヲ賦課スル事

○議長 本案可決ト認メ次條ニ移ル

書記官 西山 朗讀

第二百二十七條 府縣知事郡長ハ町村長、助役、委員、區長其他町村吏員ニ對シ懲戒處分ヲ行フコトヲ得其懲戒處分ハ譴責及科料トス郡長ノ處分ニ係ル科料ハ拾圓以下府縣知事ノ處分ニ係ルモノハ貳拾五圓以下トス

追テ町村吏員ノ懲戒法ヲ設クル迄ハ左ノ區別ニ從ヒ官吏懲戒例ヲ適用ス可シ

一 町村長ノ懲戒處分(第六十七條第二項第五)ニ不服アル者ハ郡長ニ訴願シ其郡長ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣知事ニ訴願シ其府縣知事ノ裁決ニ不服アル者ハ行政

裁決ニ不服アル者ハ府縣知事ニ訴願シ其府縣知事ノ裁決ニ不服アル者ハ行政

裁決ニ不服アル者ハ府縣知事ニ訴願シ其府縣知事ノ裁決ニ不服アル者ハ行政

裁決ニ不服アル者ハ府縣知事ニ訴願シ其府縣知事ノ裁決ニ不服アル者ハ行政

裁判所ニ出訴スルコトヲ得

二 郡長ノ懲戒處分ニ不服アル者ハ府縣知事ニ訴願シ府縣知事ノ懲戒處分及其裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

三 本條第一項ニ掲載スル町村吏員再ニ職務ニ違ヒ又ハ其情狀重キ者又ハ行狀ヲ亂リ廉耻ヲ失フ者、財産ヲ浪費シ其分ヲ守ラサル者又ハ職務ヲ執ルニ堪ヘサル者ハ懲戒裁判ヲ以テ其職ヲ解クコトヲ得其隨時解職スルコトヲ得可キ者ハ(第六十六條)懲戒裁判ヲ以テスルノ限ニ在ラス

總テ解職セラレタル者ハ自己ノ所爲ニ非スニテ職務ヲ執ルニ堪ヘサルカ爲メ解職セラレタル場合ヲ除ク外退隱料ヲ受ケルノ權ヲ失フモイトス

四 懲戒裁判ハ郡長其審問ヲ爲シ郡參事會之ヲ裁決ス其裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得監督官廳ハ懲戒裁判ノ裁決前吏員ノ停職ヲ命シ并給料ヲ停止スルコトヲ得

九 第二百二十八條 町村吏員及使丁其職務ヲ盡サス又ハ權限ヲ越エタル事アルカ爲メ町村ニ對シテ賠償ス可キコトアルトキハ郡參事會之ヲ裁決ス此裁決ニ不服アル者ハ訴願シ又ハ司法裁判所ニ出訴スルコトヲ得但其訴訟ノ爲メニ其裁決ヲ停止スルコトヲ得ス

○九番 榎村 第二百二十八條第三ノ二項ニ「總テ解職セラレタル者ハ云々」退隱料ヲ受ケルノ權ヲ失フモノトスト有リ此一項調査委員ニテ削除セシモ既ニ本會ニ於テ退隱料云々原則ニ則リ町村條例ノ規定ヲ以テ設クルコトニ定メシ上ハ此第三ノ二項モ原案ニ復セサルヲ得サル可シ或ハ之ヲ復スルヲ要セストノ論アルカハ知ラサレトモ既ニ第八十條ニ退隱料ノ目ヲ掲ケタル以上ハ必ス前後一樣ナラシムルヲ要ス因テ此說ヲ提出ス

○十四番 渡邊 賛成

○五十四番 加藤 賛成

○五十六番 幸友 賛成

○四十七番 野村 賛成

○十五番 大久保 賛成

○議長 九番ノ修正說ハ定數ノ賛成者アルヲ以テ問題トス

○五十番 三浦 問題說ニハ同意スルコト能ハス說ノ如ク退隱料云々本案ニ掲ケタル上ハ入用ナルカ如ク見ユルモ敢テ然カラズ何トナレハ此所ハ退隱料ヲ受ケルト受ケサルトヲ規定セントスル場合ナリ第七十九條第八十條ノ受ケルル場合ト同シカラス殊ニ其退隱料ヲ與フルト與ヘサルトハ全ク町村條例ノ定ムル所ニ依ルモノナレハ是等ノ手續ハ町村條例ニテ規定ス可シ既ニ其大要ヲ以テ條例ニ任セシ上ハ法律ニテ餘リニ手ヲ引キ足ヲ取ルマテニ細密ニ示スヲ要セサル可シ而シテ本官ハ此第二百二十八條ニ對シ他ニ修正ヲ加ヘントスルモノアレハ取決ハ一項毎ニ各別ニセラレンコトヲ望ム

○十四番渡邊 問題ニ賛成セシ所以ヲ述ヘン五十番ハ敢テ原案ニ復スルヲ要セスト云フモ此事ハ第七十八條ニ退隱料ニ關シ異議アルトキハ終ニハ行政裁判所マテ出訴スルコトヲ得ルナレハ充分ニ其權利ヲ確定セサルヲ得ス然カラサレハ其故障ヲ唱フルニ當リ處分上甚タ差支ヲ生セン若シ此項無クハ新ニ加ヘントスル場合ナリ既ニ載セテ原案ニ在ル上ハ決シテ削ル可キニ非ス

○九番榎村 反對者ハ原案回復説ハ過慮ナリト云フモ若シ新ニ加ヘントスルナラハ或ハ其言アル可キモ原案ニ初ヨリ此事ヲ記セリ而シテ調査委員ノ之ヲ削リタルハ退隱料云々ノ條項ハ一切除去セシニ由ル然ルニ退隱料ニシテ之ヲ設クルコトヲ得ルニ議定セシ上ハ之レニ連帶セル此項ノ如キハ固ヨリ當ニ原案ニ復スヘキモノトス況ヤ本條第三ノ所ニ職務擧ラサル者ハ懲戒裁判ヲ以テ其職務ヲ解クニ云ヤト有リ箇様ノ場合ニ際スルモ本項ノ規定無クハ他日彼此事端ヲ生スル種子トナラン原案ノ通り存スルヲ望ム

○八番楠本 問題説ニハ不同意ナリ原案ノ如クニシテ存セントスルハ町村條例ヲ無ニスルカ然カラサレハ町村人民ヲ以テ文盲ト認メタルノ致ス所ナラン退隱料云々最初ハ寒村僻地ト雖モ必ス之ヲ給スル事ニ定メタルモ今ヤ之ヲ修正シテ其之ヲ給スルト給セサルトハ町村ノ自由ニ任セタリ本官ハ其事サヘ法律上ニ掲クル事ノ無用ナルヲ覺ヘタルモ先ツハ害ナキヲ以テ同意セリ若シ之ヲ掲クルモノトセハ之ヲ與ヘ又之ヲ與ヘサルニハ如何ナル算當ヲ以テ割出ス可キヤ其事ヲモ定メサルヲ得ス獨リ之レノミナラス他ニ隨分面倒ナル事サヘ多クハ町村條例ノ規定スルニ任セタリ條例ニテ定ムル事ヲ得可キ

箇條ヲ種々掲グルルハ孰レカ町村制ニテ孰レカ町村條例ナリヤ紛ハシキ嫌ヒ有ラン殊ニ法律ハ簡明ヲ貴フ此退隱料云々ノ如キ瑣事ハ須カラク町村條例ノ規定ニ讓ルヘレ

○四十九番神田 本官モ退隱料云々此所ニ掲載スルヲ要セストス之ヲ削リタルハ九番ノ説ノ如ク一体ノ退隱料ヲ削除セシニ由ル今ヤ之ヲ設クルコトヲ得トセシ上ハ其之ヲ掲

クルノ理アルニ似タルモ畢竟退隱料ヲ復シタル事柄トハ其意大ニ違フモノ有リ必用アルニ非ラサレハ寧ろ省クヲ可トス行政裁判所ニ關係アル云々之レ本案ニ掲グルルモ又町村條例ニ載スルモ同一ノ權利ナレハ條例ノ規定ニ任ス可シ

○外四番大森 九番ノ説ハ其當ヲ得タリ此項ハ行政裁判所ニ涉ル程ノ要件ナリ且ツ各位ノ熟慮ヲ請ハントスルハ懲戒裁判ヨリ自然ニ退隱料ヲ受クルヲ得ルト得サルトニ關係スル有リ此懲戒處分ノ事ヲ以テ町村條例ノ規定ニ任ス可シト云フハ非ナリ然レハ是非共法律ニ掲ケサルヲ得ス此退隱料ノ懲戒處分ニ附隨スルヤ猶刑法ニ附加刑ノ存スルカコトシ必ス一方ニ別ツヲ得ス其權利ヲ失フト失ハサルトヲ定ムル場合ナレハ町村條例ニ任カセ勝手ニ處置セヨト言ヒ放チ去ルハ到底能ハサル所ナリ

○議長 時午ヲ過ク午餐ノ爲メ退場セン本日ハ土曜日ナルモ急施ヲ要セラル、法案ナルヲ以テ午後モ尙ホ開會セン散會セヨ

午後零時十五分閉會

午後第一時開會

退席

六十三番

渡邊 驥

三十番

本田 親雄

四十一番

長岡 護美

五十二番

由利 公正

二十九番

町田 久成

十七番

壬生 基修

○議長 午前ノ續會ヲ開ク且現問題ニ付テハ最早討論モ盡キタリト認ムルニ因リ決ヲ取  
ラントス即チ九番ノ發議セシ修正ニ同意スル者ハ起立セヨ  
起立者十七人

○議長 多數ナルヲ以テ修正ニ決ス

○五十番 安 三浦

質問ノ時機ニハ後レタレトモ第二百二十八條ニ付キテ少シク疑點アレハ一

應内閣委員ノ辯明ヲ煩ハサン即チ第五十七條ニモ三ヶ月前ニ申立ツルトキハ隨時退  
職ヲ求ムルコトヲ得ト有リ第六十七條ニモ隨時解職スルコトヲ得ト有リ然ルニ第百  
二十八條第三ノ括弧中ニ只第六十七條ノミヲ明記シテ第五十七條ヲ掲ケサルハ何故ナ  
ルヤ解シ難シ是レ或ハ意アツテ此ノ如クセシヤ或ハ偶然ノ誤脱ナルヤ

○外四番 大森 鐘一

第二百二十八條ノ第三ニハ第五十七條ト第六十七條ト併セ記スルカ當然

ナレトモ今本案ニ此ヲ掲ケテ彼ヲ記セサルハ只其首タル者ヲ掲ケレハ足レリト認メシ  
ノミ

○五十番 安 三浦

然レハ第二百二十八條ニ修正ヲ加ヘン第二項「追テ町村吏員ノ懲戒法ヲ設

クル迄ハ左ノ區別ニ從ヒ官吏懲戒例ヲ適用ス可シ」云々ニ付テハ何分ニモ了解シ難キ  
所アルヲ以テ内閣委員ニ其疑ヒヲ質シタルニ内閣委員ハ之ニ答フルニ文字ノ通リト云

ヘル冷澹ノ一語ヲ以テセリ然ルニ本官ハ原案カ左ノ區別ト指シタル一目ヨリ四目マテ  
ヲ反覆熟讀スルニ其第一目第二目ハ毫モ官吏懲戒例ヲ適用スル上ニ付テ關係ヲ有セス  
只第三目ニ於テ僅ニ左ノ區別云々ニ照應スル文字アルモ最早第四目ニ至リテハ懲戒裁  
判ノ方法ヲ示スニ過キス故ニ概シテ之ヲ言ヘハ大層ラシク左ノ區別ニ從ヒ「云々」一町  
村長「云々」二郡長ノ「云々」三本條第一項「云々」四懲戒裁判ハ「云々」ト書キ列子タル程ノ詮  
ナキカ如シ又第三目ノ冒頭ニ「本條第一項ニ掲載スル町村吏員」云々ト有レトモ所謂本  
條第一項ニハ「町村長助役委員區長」云々ト有リテ全ク町村吏員ヲ網羅シ盡セルニ非ス  
然ルヲ本條第一項ニ掲載スル町村吏員云々ト言フトキハ第一項ナル町村長助役委員區  
長ト言ヘル中ニ收入役及ヒ書記等ヲ含蓄セシメタルヤノ嫌ヒ有リテ甚タ不都合ナリ且  
又同項ノ括弧中ニ「第六十七條」トノミ明記シテ第五十七條ノ文字ヲ掲載セサルハ何故  
ソト質問シタルニ是ハ只首タル者ヲ掲ケレハ從タル者ヲ掲ケスシテ可ナリト認メタル  
ニ由ルトノ答辯ナリシモ斯ク一方ヲ掲ケ一方ヲ掲ケサルトキハ其掲ケサル一方ハ此中  
ニ含蓄セサルヤノ疑ヒ無キヲ保シ難シ以上陳述スル如キ次第ナルヲ以テ第一「左ノ  
區別ニ從ヒ」ノ七字ヲ削リ第二「各目ニ冠セル」一「二」「三」「四」ノ數字ヲ除キテ獨立ノ項  
ト爲シ第三「本條第一項ニ掲載スル」ノ十字ヲ省キ去リ第四ニ括弧中ナル「第六十七條」  
ノ上ニ第五十七條ノ五字ヲ加ヘント欲スルナリ斯ク陳述シ來レハ甚タ錯雜ナル修正ニ  
似タルモ其實ハ錯雜ナル修正ニ非ス又斯ク修正スルトキハ大ニ原案ノ意味ヲ變スルニ  
似タレトモ其實ハ毫モ原案ノ意味ニ異ナル無シ已ニ其意味ニ異ナル無クハ餘計ナ修

正ナルニ似タレトモ只本官ハ前後兩度マテ委員ノ選ニ當レルヲ以テ其氣附キタルコトヲ陳ヘスシテ已マンモ心ニ快カラサレハ敢テ之ヲ提出スルノミ

○議長 五十番議官ヨリ提出セシ修正説ハ賛成者ナキニ似タリ

○五十一番 井田 五十番ノ修正説ハ多岐ニ涉レルヲ以テ容易ニ賛成不賛成ノ意見ヲ定メ難シ殊ニ括弧中ニ第五十七條ノ文字ヲ加フルト一二三四ノ數字ヲ除キテ獨立ノ項ニ爲ストハ其性質ニ於テモ大ニ異ナル所アルカ如シ故ニ本官ハ便宜ノ爲メ彼ト此トヲ區別シテ取決セラレンコトヲ希望ス

○議長 五十一番ニ告ク五十番ノ提出シタル修正ノ一半ヲ賛成シテ其一半ヲ賛成スル能ハスンハ五十番ノ説カ消滅シタル後ニ其賛成セント欲スル部分ヲ自説トシテ提出セハ可ナラン

○五十一番 井田 本官ハ發議者ニ協議スル有ラント欲スルモ結局只今ノ説ハ多岐ニ涉ルヲ以テ先ツ豫メ二度ニ取決セラレンコトヲ請ヒシナリ

○議長 五十一番ノ請求アルモ五十番ヨリ數項連帶シテ提出シタレハ本席ニ於テハ矢張り連帶シテ決ヲ取ラントス故ニ五十一番ニ於テ別ニ修正ノ考案アラハ五十番ノ説ノ消滅セシ後ニ提出セヨ

○三十四番 小畑 五十番ニ質問セン本官ハ五十番ノ説ヲ左ノ區別ニ從ヒノ七字ヲ削リ尙ホ一二三四ノ文字ヲ除キテ獨立ノ項ニ爲スト本條第一項ニ掲載スルノ十字ヲ削去スルトノ三點ト思ヒシカ發議者ハ果シテ括弧中ニ第五十七條ノ文字ヲ加フルコト迄モ連帶

シテ提出セラレシヤ

○五十番 三浦 然リ

○三十四番 小畑 然レハ本官ハ五十番ノ修正説ノ全部ヲ賛成ス

○議長 五十番ノ提出シタル修正説ハ賛成者定數ニ滿タサルヲ以テ成立セス

○外三番 白根 第一二八條第三ノ職務ヲ執ルニ堪ヘサル者ヲ職務舉ラサル者ト修正セラレシカ所謂職務舉ラサル者ノ中ニハ自己ノ所爲ニ依ルト自己ノ所爲ニ非サルトノ二様アラン左スレハ修正ヨリモ却テ原案ノ如クスルカ穩當ナラント想像ス是ハ固ヨリ些々タル字句上ノコトナレトモ五十番ノ言ハレシ如ク氣付キタルコトヲ陳ヘスシテ其儘ニ已マンモ如何ナレハ念ノ爲メ之ヲ一言ス

○五十番 三浦 第二百二十九條ハ朗讀ニナリシヤ

○議長 然リ

○五十番 三浦 然レハ修正説ヲ提出セン而シテ今提出セントスル説ハ既ニ第二讀會ニ於テモ一旦提出セシカ聊カノ少數ニテ消滅ニ歸セリ其理由ハ

○議長 五十番ノ提出セントスルハ第二百二十九條ニ係ル修正説ナルヤ

○五十番 三浦 然リ

○議長 然レハ暫ク發言ヲ止メヨ而シテ念ノ爲メ五十一番ニ問ハン第二百二十八條ニ付テハ別段ニ修正説ヲ出サハルヤ

○五十一番 井田 本官ハ改メテ五十番ヨリ提出スルナラント思ヒシ故ニ沈黙セシカ其提

出ヲ見サル以上ハ議長ノ注意ニ依リ本官之ヲ提出セン即チ本官ノ修正説ハ第二百二十八條第三ノ括弧中ナル「第六十七條」ノ上ニ第五十七條ノ五字ヲ加フルニ在リ而シテ其理由ハ先刻五十番ノ陳述セシ如クナルヲ以テ之ヲ略ス

○五十番 三浦 贊成

○九番 榎村 贊成

○二十三番 久我 贊成

○十四番 渡邊 贊成

○六十九番 上杉 贊成

○議長 五十一番ノ提出シタル修正説ハ定數ノ贊成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○議長 他ニ發議ナキヲ以テ問題ノ決ヲ取ラン五十一番ノ修正説ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者二十七人

○議長 多數ナルニ依リ修正ニ決ス

○五十番 三浦 前言ヲ繼キテ第二百二十九條ニ對スル修正説ヲ提出セン本條ニ付テハ第二讀會ニ種々ノ議論アリシモ各説皆多數ヲ得スシテ結局原案ノ如ク決定セリ然レトモ爾來數日間種々考案ヲ運ラスニ何分ニモ原案ノ如クシテハ都合ノ點少ナカラサルニ依リ是非トモ行政裁判所カ司法裁判所カノ一方ニ片付ケサル可ラス併司法行政兩裁判所ノ孰レニカ片付クルモノトシテ司法裁判所ノ一方ニ片付クルカ便利ナルカ或ハ行政裁

判所ノ一方ニ片付クルカ便利ナルカヲ考フルニ先ツ本官ノ考案スル所ニテハ司法裁判所ヨリモ行政裁判所ノ方カ便利ナリト言ハサルヲ得ス成程行政裁判ニテハ目ノ詰マサル嫌ヒ有リト言ハ、稍ヤ其氣味ナキニ非サレトモ素ト町村吏員及ヒ使丁位ニ係ル賠償

裁判ハ高ノ知レタル小事件ノミナレハ先ツ大抵ハ郡參事會ノ裁決ニ服シテ已ムナラン又治安裁判所ハ近クシテ便利ナリ行政裁判所ハ遠クシテ不便ナリト言ハ、一應尤ニハ聞ユレトモ現今ノ有様ヲ以テ考フレハ治安裁判所ニ出訴スルニモ中々手數ヲ要シ殊ニ裁判ノ下ル迄ニハ多クノ日月ヲ要スルヲ以テ強チ之ヲ便利ナリトハ言フ可ラス彼レ

此レヲ比較照合シテ司法裁判所ト行政裁判所トノ便否得失ヲ討究スレハ行政裁判所ノ司法裁判所ニ優ル萬々ナリ因テ本官ハ此條ノ「郡參事會之ヲ裁決ス」以下ヲ其裁決ニ不服アル者ハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ七日以内ニ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但訴願ヲ爲シタルトキハ郡參事會ハ假ニ其財産ヲ差押フルコトヲ得ト修正センコトヲ欲スルナリ

○九番 榎村 五十番ノ説ヲ贊成ス此條ニ付テハ第二讀會ニ於テモ紛々タル議論アリシカ結局議論倒レト爲リテ原案ノ如ク通過セシハ本官ノ遺憾トスル所ナリ今幸ニ五十番ノ説ノ如ク決スレハ行政裁判所ノ一方ニ片付キ加フルニ原案ノ但書ヨリ生スル種々ノ嫌ヒヲ避クルニ足ラント信ス是レ本官カ贊成ヲ表スル所以ナリ

○十三番 伊集院 贊成

○十四番 渡邊 贊成



○六十八番 岡内重俊 本官ハ修正文中ノ差押云々ニハ全ク同意ヲ表スル能ハサレトモ去リト

テ原案ノ如クスレハ甚タ不都合ナルニ依リ已ムヲ得ス不同意ノ點ヲモ併セテ賛成ス

○四十九番 神田孝平 賛成

○五十四番 加藤弘之 賛成

○四十番 綿貫吉直 賛成ス已ニ九番ノ陳辯セシ如ク原案ノ但書ニハ甚タ不都合ノ點アルモ五

十番ノ説ノ如クスレハ始メテ完全無疵ノ法文ト爲ランヲ信スルナリ

○議長 五十番ノ提出シタル修正説ハ定數ノ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○三十四番 美緒小畑 發議者ニ質問セン第三十七條ノ第四項ニハ「本條ノ事件ニ付テハ町村長

ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ爲スコトヲ得」ト有リテ即チ町村長ヨリモ訴願訴訟ヲ爲スヲ得ル

コト明瞭ナレトモ只今ノ問題ニテハ町村長ヨリモ訴願訴訟ヲ爲スヲ得サルカ如何ン

○議長 五十番ノ提出セシ修正文ハ頗ル長キヲ以テ各官ノ注意ノ爲メ書記官ヲシテ一應

之ヲ朗讀セシメン

書記官 西山眞平 朗讀

第二百二十九條 町村吏員及使丁其職務ヲ盡サス又ハ權限ヲ越エタル事アルカ爲メ町村

ニ對シテ賠償ス可キコトアルトキハ郡參事會之ヲ裁決ス其裁決ニ不服アル者ハ裁決

書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ七日以内ニ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會

ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但訴願ヲ爲シタルトキハ郡參

事會ハ假ニ其財産ヲ差押フルコトヲ得

○六番 宮本小一 三十四番ヨリ發議者ニ向ツテ質問セシコトハ本官モ之ヲ聞カント欲スルナ

リ然ルニ發議者ハ三十四番ノ質問ニ對シテ何等ノ答辯ヲモ爲サ、ルニ依リ本官改メテ

問ヒヲ發セン即チ町村ナル者カ原告ト爲リ町村吏員カ被告ト爲リテ賠償ノ義務ヲ負フ

コト有レハ其反對ニ被告カ原告ト爲リテ訴訟ヲ起スコトモ有ル筈ナリ然ル所第三十七

條ニハ「本條ノ事件ニ付テハ町村長ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ爲スコトヲ得」ト有ルニ只今

ノ修正文中ニハ毫モ其事ナキハ如何ン

○五十番 三浦安 三十四番ヨリ質問ヲ起サレシ際ニハ本官席ニ在ラサリシヲ以テ其要旨ヲ

知ラス只今六番ノ言ニ依リ大略ノ意ハ聞キ得タレトモ尙ホ一應三十四番ノ陳述ヲ煩ハ

シ然ル上ニテ答辯セン

○三十四番 美緒小畑 然レハ今一應陳述セン第三十七條ノ第三項ニ「町村會若クハ町村長ノ

裁決ニ不服アル者ハ郡參事會ニ訴願シ」云ヤト有リテ其次ノ第四項ニ「本條ノ事件ニ付

テハ町村長ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ爲スコトヲ得」ト有リ然ルニ只今ノ修正文中ニ其事

ナキハ如何ン蓋シ原案ニ於テハ司法裁判所云々ノ明文アルヲ以テ原告被告ノ兩方ヨリ

出訴スルヲ得ルコト自ラ明カナルモ其司法裁判所云々ヲ削除スル以上ハ第三十七條ノ

第四項ト同様ノ明文ヲ掲グルノ必要アルニ似タリ故ニ發議者ノ之ヲ掲ケサル所以ヲ問

フ

○五十番 三浦安 質問ニ答ヘン即チ第三十七條ト本條トハ大ニ其場合ヲ異ニスルヲ以テ縱

令彼ニハ之ヲ掲グルノ必要アルモ此ニハ之ヲ掲グルノ必要ナシ現ニ第二百二十八條ノ如

キモ本條ノ事件ニ付テハ云々ノ項ヲ掲ケス此等ヲ參照シテ一考セラレナハ別ニ本官ノ多辯ヲ待タスシテ了解シ得ラル、ナラン

○十四番 清邊 本官ハ第二百二十八條ニ修正ヲ加ヘントスル意見アリ因テ此意ヲ豫陳ス

○議長 現問題ノ決ヲ取ラン五十番ノ修正說ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者二十一

○議長 多數ナルニ依リ修正ニ決ス

○十四番 清邊 第二百二十八條第三ノ中ニ職務ヲ執ルニ堪ヘサル者ト有リシヲ職務舉ラサル者ト修正セシハ次ノ項ヲ抹殺シタルカ故ナルモ已ニ其抹殺セシ項ヲ回復シタル以上ハ隨テ此項モ原案ニ復セサルヲ得ス若シ又此項ヲ原案ニ復スルヲ得スハ次項ニ至リ自己ノ所爲ニ非スシテ職務舉ラサルカ爲メ云々ト修正スルノ外ナキモ所謂自己ノ所爲ニ非スシテ職務舉ラサルトハ甚ダ苦シキ文章ナリ右ノ次第ナルヲ以テ職務舉ラサル者ヲ下付原案ノ如ク職務ヲ執ルニ堪ヘサル者ト修正セン請フ各官ニ於テモ熟考ノ上賛成ヲ表セラレンコトヲ

退席 八番

楠本 正隆

三十一番

長谷部辰連

十三番

伊集院兼寛

○五十六番 幸林友 賛成

○五十四番 加藤弘之 賛成

○六十八番 岡内重俊 賛成

○四十番 綿貫吉直 賛成

○十八番 長與專齋 賛成

○議長 十四番ノ提出シタル修正說ハ定數ノ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○九番 榎村正直 只今ノ問題ハ職務舉ラサル云々ヲ下付原案ニ復セントノ主意ナルモ第二百二十八條ハ已ニ修正ニ可決シテ最早修正說ヲ出タスヲ得ス良シ又修正說ノ出ツル有ルモ問題トハ爲ス可ラサル筈ナリト信ス如何ン

○議長 先刻第二百二十八條ニ對スル問題ノ決ヲ取りテ其問題ヲ可ト決スル旨ヲ宣告セシカ該條全體ニ付テハ未タ孰レニ決シタリトノ宣告ヲ爲サ、ルナリ

○五十番 三浦安 只今ノ修正ハ第二百二十八條ノ第三ニ係ル說ナルモ該項ハ已ニ五十一番ノ修正說ニ可決シテ動カス可ラサル筈ナリ尤モ五十一番ノ說カ決セサル以前ニ豫陳アレハ格別ナレトモ其豫陳ナカリシ以上ハ今ニ至テ修正說ヲ出タスモ又之ヲ問題トスルモ共ニ誤リナランカト思考ス

○議長 成程本官カ十四番ノ說ヲ問題トスル旨ヲ宣告セシハ誤リナリ因テ只今ノ宣告ヲ取消シ併セテ十四番ヨリ修正說ノ出テサリシモノト見做サン各位之ヲ領セヨ

○議長 最早發議モ盡キタレハ第二百二十八條及ヒ第二百二十九條ノ中ニテ修正ニ決シタル項ヲ除クノ外ハ本案ニ可決セリト認メ次條ニ移ル

書記官 西山眞平 朗讀

第八章程 附則

第五五九號 町村制

八百三十三

第二百二十九條 郡參事會、府縣參事會及行政裁判所ヲ開設スル迄ノ間郡參事會ノ職務

ハ郡長、府縣參事會ノ職務ハ府縣知事、行政裁判所ノ職務ハ内閣ニ於テ之ヲ行フ可シ

第三百十條 此法律ニ依リ初テ議員ヲ選舉スルニ付町村長及町村會ノ職務并町村條例

ヲ以テ定ム可キ事項ハ郡長又ハ其指命スル官吏ニ於テ之ヲ施行ス可シ

第三百十一條 此法律ハ北海道、沖繩縣其他勅令ヲ以テ指定スル島嶼ニ之ヲ施行セス

別ニ勅令ヲ以テ其制ヲ定ム

第三百十二條 前條ノ外特別ノ事情アル地方ニ於テハ町村會及町村長ノ具申又ハ郡參

事會ノ具申ニ依リ勅令ヲ以テ此法律ノ條規ヲ中止スルコトヲ得

第三百十三條 社寺宗教ノ組合ニ關シテハ此法律ヲ適用セス現行ノ例規及其地ノ習慣ニ從

第三百十四條 此法律中ニ記載セル人口ハ最終ノ人口調査ニ依リ現役軍人ヲ除キタル

數ヲ云フ

○五十番三浦安 第二讀會ニ於テハ第三百三十條ヲ凡テ削除セントノ說ヲ提出セシカ退テ熟

考スレハ餘リ急激ノ議論ナリシニ似タリ畢竟郡制府縣制ニ先ツテ町村制ヲ設クルハ可

ナレトモ其郡制府縣制ノ備ラサルニ先ツ町村制ヲ施行スルハ甚タ不都合ナリトノ主意

ヲ以テ前陳ノ說ヲ出セシカ已ニ其議論ノ急激ナルコトヲ覺リシ以上ハ重子テ右ノ如キ

トヲ切望ス

○五十一番井田 只今五十番ヨリ洵ニ適當ナル修正說ヲ出タサレタリ元來郡參事會ノ職

務ヲ郡長一人ニ行ハシムルハ頗ル危險ノコト、言ハサルヲ得ス何トナレハ各府縣ニ於

テハ各部ニ書記官アリ各課ニ課長アリテ百般ノコト概子備ハラサルハ無キモ獨リ郡役

所ニハ只書記アルノミニシテ他ニ郡長ヲ助ケ郡長ヲ制スル者ナケレハナリ加之今日ノ

郡長ハ今日ノ事務ヲ執ルニ適當ナルモ郡參事會ニ代テ其職務ヲ行フ如キコトハ到底爲

シ得サル者ト斷言スルモ敢テ不可ナル無シト想像ス今試ミニ第三百三十一條ヲ見ルニ

「此法律ニ依リ初テ議員ヲ選舉スルニ付町村長及町村會ノ職務并町村條例ヲ以テ定ム

可キ事項ハ郡長又ハ其指命スル官吏ニ於テ之ヲ施行ス可シト有リ郡長ノ職タル亦重

カラスヤ其重任タル此ノ如ク其人物タル彼ノ如キヲ願ミスシテ漫ニ郡參事會ノ行フ可

キ職務ヲ行ハシメハ如何ナル町村條例ヲ定メテ結構ナル此法律ノ精神ヲ傷ランモ知ル

可ラス是レ本官ノ最モ憂慮スル所ナリ故ニ本官ハ前會ニ於テモ五十番ノ說ヲ贊成セン

ト思ヒシカ只第三百三十條ヲ全ク削除セント言ハハ體裁ノ好キ廢案說ト爲ルヲ以テ姑ク

不同意ヲ表シタリ然ル所本日ハ五十番カ其説ヲ改メテ甚ダ適當ナル修正ヲ出サレタレハ本官モ亦前日ノ不同意説ヲ變シ喜ンテ之ヲ賛成ス

○四十番 精實 吉直 郡制府縣制ノ備ハルヲ待チ之ト同時ニ町村制ヲ施行スルコトハ初メヨリ本官ノ希望シテ已マサル所ナリ然レトモ第二讀會ニ於テ其説ノ少數消滅ニ歸シタル以上ハ只今五十番ノ提出セシ修正ヲ適當ナル者トシテ賛成セサルヲ得ス元來原案ハ郡制府縣制ニ先ツテ此町村制度ヲ施行スル精神ナランモ然スルトキハ郡長カ如何様ナル我儘勝手ノ處分ヲ爲スヤモ測ラレス現ニ第二十九條第二項ニハ「町村長ハ選舉ヲ終リタル後之ヲ郡長ニ報告シ郡長ニ於テ選舉ノ効力ニ關シ異議アルトキハ訴願ノ有無ニ拘ラス郡參事會ニ付シテ處分ヲ行フコトヲ得」ト有リ又第六十條第一項ニモ「郡長ニ於テ前條ノ認可ヲ與ヘサルニハ郡參事會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス若シ郡參事會之ニ同意セサルトキハ郡長ノ具申ニ依リ府縣參事會之ニ同意スルニ於テハ其認可ヲ與ヘサルコトヲ得」ト有リ斯ル明文アルニ拘ラスシテ郡參事會ノ職務ヲ郡長ニ委任スルトキハ即チ郡長ハ自分ノ異議ヲ自分ニテ裁決シ又自分カ認可セサラント思ヘハ自分カ郡參事會ノ代表者ト爲リテ之ニ同意スル如キ結果ヲ生スルナラン是レ實ニ不都合ノ甚シキ者ナリ故ニ苟モ此町村制ヲシテ圓滑ニ行ハレシメ且郡長ヲシテ我儘ナル處分ヲ爲サ、ラシメント欲スレハ是非トモ郡制ト同時ニ實施セサル可ラス而シテ郡制ト同時ニ實施セサル可ラストセハ五十番ノ修正説ハ眞ニ適當ヲ得タル者ト言ハサルヲ得ス因テ本官ハ大ニ五十番ノ説ヲ賛成ス

○六十九番 上杉 茂憲 本官モ亦五十番ノ説ヲ賛成ス第二讀會ニ於テハ此第三百三十條ヲ全ク削除セントノ説ナリシカスクテハ少シク過激ノ嫌アルノミナラス五十一番ノ陳述セル如ク結局ハ廢案ト同様ニ歸スルノ恐レ有リシモ只今提出セラレタル説ハ單ニ郡制ノ備ハルヲ待タント言フニ在リテ如何ニモ程好キ修正ナラント思考ス願クハ定數ノ賛成者ヲ得テ問題ト爲ランコトヲ

○三十四番 小畑 美穂 本官ハ第二讀會ニ於ケル第三百三十條削除説ノ模様ヲ熟知セサレトモ只今五十一番及ヒ六十九番等ノ説ク所ヲ聞ケハ五十番ノ修正説ハ至極穩當ナルニ似タリ因テ本官モ之ヲ賛成ス

○六番 宮本 小一 賛成

○議長 五十番ノ提出シタル修正説ハ定數ノ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○六十八番 岡内 重俊 本官ハ現問題ニ同意スル能ハス而シテ全體ノ利害得失ハ第二讀會ニ於テ論シ盡シタレハ最早賛辯ヲ要セサレトモ只今ノ問題ノ如クスレハ矢張り廢案ト同様ノ結果ヲ生セン何ヲ以テ之ヲ言フ即チ第三百三十條ナル「郡參事會」及ヒ「郡參事會」ノ職務ハ郡長ノ數字ヲ削除スルトキハ之カ爲メニ本案中凡ソ二十ヶ條許ハ行ハントシテモ行ハレサルニ至レハナリ且萬一ニモ問題ノ如ク決スレハ第三讀會ニ於テ更ニ全部付託修正委員ヲ設ケサル可ラス是レ決シテ喜フ可キコトニ非サルナリ要スルニ現問題ノ不可ナルコトハ各官ノ熟知スル所ナレハ本官ハ復タ喋辯ヲ費サスシテ只タ現問題ニ不同意ナルコトヲ一言シ置クナリ

○五十番三浦 本官ノ提出シタル修正説ハ幸ニ各官ノ賛成ヲ得タリ然ル所只今六十八番ノ駁議アリシカ現問題ト第二讀會ニ提出セシ説トハ大ニ異ナル所アリテ存スルナリ何ヲ以テ大ニ異ナル有リト言フ即チ第二讀會ニ於テ提出セシハ第三百三十條ヲ丸キリ抹殺シ郡參事會府縣參事會及ヒ行政裁判所ノ開設ヲ待テ此制度ヲ施行セントノ説ナリシモ只今ノ修正ハ僅ニ「郡參事會」云々ノ數字ヲ削リ暫ク郡制ノ備ハルヲ待テ此制度ヲ行ハントノ旨趣ニ外ナラサレハナリ此ノ如キ相異アル以上ハ縱令六十八番カ現問題ヲ見テ廢案ニ近シト做スモ滿場各官ハ必ス其然ラサルヲ詳知セラルハナラント信ス況ヤ本官ハ毛頭廢案ノ思想ヲ懷カス十分ニ原案ヲ賛成スル者ナルニ於テヲヤ畢竟反對論者ハ本案ヲ維持シテ廢案ニ付セサラシメントノ熱心ヨリ本官ノ説ヲ目シテ廢案ニ近シト爲スナランモ本官ハ矢張り論者ト同シク十分ニ原案ヲ賛成シ原案ヲ維持セント欲スル者ナリ然レトモ本官カ反對論者ノ如ク一モ二モ無ク原案可ナリト言ハスシテ修正ス可キハ宜シク之ヲ修正シ削除ス可キハ則チ之ヲ削除シ又施行期限ノ如キニ至ルマテモ猶豫ス可シト認メタルハ之ヲ猶豫セント論スルハ他ナシ郡制ト共ニ之ヲ施行スレハ始メテ圓滑ニ行ハル可ク而シテ郡制ノ出ツルモ遠キニ非サレハ殊更ニ周章狼狽シテ町村制ノミ第一着ニ實施スルノ必要ナレト信スルニ由ルナリ然ルニ六十八番ハ如何ニ思ヒ違ヘラレシカ現問題ノ如ク決スレハ本案中ニテ凡ソ二十ヶ條許リ實際ニ行ハレストノ語ヲ以テ攻撃セラレシモ素ト本官カ只今ノ修正説ヲ出セルハ郡制ノ整備スルマテ此制度ノ實施ヲ見合ハセントノ主意ナレハ縱令實際ニ行ハレ難キ箇條ハ二十ヶ條アルモ五十ヶ條

アルモ決シテ意トスルニ足ラス要スルニ六十八番ノ駁説ハ第三百三十條ノ「郡參事會」云々ヲ省キテ直チニ其他ヲ實行スルモノトノ誤解ヨリ出ツルヲ以テ敢テ其誤解論ヲ辯駁スルノ必要ナシトハ信スレトモ萬一ニモ其誤解論ニ誤マルハ有ランヲ恐レテ斯クハ一辯シ置クナリ倍此他施行期限ヲ猶豫ス可キ理由ハ前會ニ略ホ陳述シ盡シタレハ重テ見此ニ喋々ノ辯ヲ要セサレトモ只郡制ノ備ハルヲモ待タスシテ先ツ町村制カラ遣ツテ見ロト云フ如キコト有ラハ或ハ結構ナル此制度モ大食後ニ美食ヲ與ヘテ胃病ヲ發セシムルト一般ノ感覺アランヲ恐ル是レ本官カ主トシテ施行期限ヲ猶豫セント論スル一理由ナリ元來町村制度ヲ設クルハ洵ニ美事ナリ又此町村制ハ頗ル美法ナリ故ニ本官ハ之ヲ美法ナリ美事ナリトシテ感服三歎スルモ獨リ原案ハ餘リ條項カ細末ニ涉リ過キテ爲メニ主客ノ別ヲ失フノ嫌ヒ有リ所謂主トハ何ツヤ曰ク町村會曰ク町村有財産ノ管理曰ク町村ノ歳入出豫算及決算等是ナリ此等主要ノ法サヘ十分ナレハ其他ノ事ハ成ル可ク條項ヲ節略シテ徒ニ紛擾ヲ招カサル様ニ致シ置キ他日實施ノ上ニ於テ差支ヲ生スル有ラハ其時ニ臨ンテ改正増補スルモ亦晩カラス今ヤ本案ヲ熟讀スルニ所謂主要ナル大綱目ハ十分ニ具備シテ間然スル所ナキニモ拘ラス其上ニ種々雜多ナル項目ヲ設ケ之カ爲ニ主客ノ別ヲ失フニ至ラシメタルハ蓋シ外國ノ制度ニ沈溺スルノ致ス所ニ非サルカノ疑ヒ無キ能ハス是レ本官カ前會ノ如キ説ヲ爲ス所以ナリ究竟スルニ此案ノ實施ヲ急ク所以ノ者ハ國會ノ開設近キニ在リトノ一點ニ過キサランモ今三ヶ月ヤ四ヶ月早ク之ヲ實施シタリトテ國會開設ノ曉ニ何ノ益アラン啻ニ益ナキノミナラス折角ノ美法モ施行ヲ

急ク爲メニ民之ヲ厭フト云フ如キ結果ヲ見ルニ至ラン何ヲ苦ンテ郡制モ定マラサルニ之ヲ施行セントスルカ本官ヨリ之ヲ見レハ實ニ入ラサル心配ト言ハサルヲ得ス本官カ修正說ヲ提出シタル所以ノ概要ハ以上ニ略陳スル如シ願クハ滿場各官ニ於テモ篤ト旨趣ノ在ル所ヲ領解セラレシコトヲ

○番三番白根 第一百三十條ニ付テハ第二讀會ニ於テ十分ニ辯シ置キタレハ今復タ多言ヲ須ルノ必要ナシトハ信スレトモ只五十番ノ陳述セラレシ比喩ニ對シテ一言セン五十番ハ比喩ヲ設ケテ町村制度ヲ制定シ且急ニ之ヲ施行スルハ大食後ニ美食ヲ與ヘテ胃病ヲ發セシムルニ同シト言ハレシカ本員ハ五十番ノ注文通りニスレハ却テ胃病ヲ發セシムルノ恐レ有リト思考ス何トナレハ一時ニ町村制市制郡制府縣制ヲ發布實施スルトキハ恰モ佳肴美酒ヲ山積シテ強ヒテ大食セシムルト一般ナレハナリ且又五十番ハ現問題ト第二讀會ノ說トハ大ニ異ナル所アリト論スルモ大体執ル所ノ主義ヲ改メラレサル以上ハ今日郡制ノ出ツルヲ待ツトノ說ハ他日郡制ヲ施行スルニ府縣制ノ具ハルヲ待ツトノ說タラサルヲ保シ難シ然リト雖モ五十番ハ第二讀會ニ於テ全條削除說ヲ唱ヘ第三讀會ニ至リテ僅々「郡參事會」云々ノ數字ヲ削ル修正說ヲ出サレタリ此ニ由テ之ヲ觀レハ若シ第四讀會ノ設ケ有ランニハ必ス原案可ナリト主張セラル、ニ相違ナシ其ハ兎モ角モ原案ノ如クセハ初メテ食傷ノ患ヲ避クルニ足ラント信ス故ニ現問題ノ消滅ニ歸センコトヲ希望スルナリ

○十四番渡邊 五十番ノ論辯ハ甚タ其意ヲ得ス何トナレハ五十番ハ此制度ヲ三月ヤ四月

早ク施行シタリトテ何ノ益アラント言ハレシカ其論理ヲ以テスレハ三月ヤ四月遅ク實施シタリトテ矢張り何ノ益モ無キ筈ナレハナリ若シ五ヶ月カ半年ニテ急ニ町村人民ノ智識モ進ミ開明ノ度モ進ム譯ナラハ謹ンテ其說ニ從ハント欲スレトモ所謂智識開明ノ度ハ中々半年ヤ一年ニテ急進スル者ニ非サルヲ奈何セン成程五十番ノ言ハル、如ク町村制モ市制モ郡制モ府縣制モ同時ニ施行スルモノトセハ或ハ都合ノ好キコトモ有ラン然レトモ此ノ如キ新法ヲ行フノ初メニハ意外ノ混雜ヲ生スルカ常ナレハ一ノ町村制ヲ施行スルニモ餘程十分ニ訓練シテ然ル後ニ取掛ラサルヲ得ス何ヲカ訓練ト言フ即チ縣廳府廳及ヒ郡役所等ノ官吏ヲシテ豫メ行政ノ都合事務ノ都合等ヲ斟酌取合セシムル如キ是ナリ故ニ本官等ハ先ツ町村制ヨリ施行シ其施行上ニ付テ取合ス可キハ取合シ斟酌ス可キハ斟酌シ十分ニ訓練ヲ爲シタル後初メテ郡制府縣制ヲ實施スルカ至當ノ順序ナラント信ス但シ郡參事會ノ設ケ有ラサル今日ヨリ町村制ヲ施行スルハ不可ナリト反對論ハ稍ヤ一理アルニ似タリ然レトモ郡長其人カ此制度ノ精神ヲ十分ニ合點シテ郡參事會ノ職務ヲ行ハ、毫モ不都合ノコト無カラシ況ヤ郡長ヲシテ郡參事會ノ職務ヲ行ハシムルハ敢テ長日月ニモ非サル可キヤ又況ヤ郡參事會ノ職務ハ訴願ヲ裁決スル位ニ止マルヲヤ斯ク考ヘ來レハ郡長カ郡參事會ノ職務ヲ行フ一事モ深ク掛念スルヲ要セサルナリ元來發議者ハ原案ニ對シテ急激急激ト言ハレシモ中央集權ノ制度ヲ改メテ地方分權ノ制度ト爲スニハ是非トモ原案ノ如クシテ其端緒ヲ啓カサル可ラス苟モ然ラズシテ市町村制ヨリ府縣制マテ一時ニ發布シ一時ニ施行スル如キ有ラハ其レコソ急激

ニ失スルノ批評ヲ免レサラン左スレハ五十番ノ所謂急激トハ夫子自ラノ説ヲ言フ者ト見做シテ可ナリ之ヲ要スルニ五十番ハ第二讀會ノ説ト只今ノ問題ト大ニ異ナル所アリト論スルモ本官ハ彼此ノ間ニ大ナル差別アルコトヲ見出ス能ハス是レ獨リ本官ノミ然ルニ非スシテ滿場各官ノ見ル所モ亦蓋シ同一ナラント想像ス故ニ本官ハ現問題ノ行ハレサランコトヲ切望スルナリ

○四十九番 神田 孝平 本官モ問題ニ不賛成ナリ成程五十番ノ論スル如ク郡參事會ノ整頓スルマテ町村制度ノ施行ヲ見合ハセ置クコトハ敢テ不可ナルニ非ス故ニ本案中ニ郡制施行ノ日マテ此法律ヲ施行セストノ明條ヲ掲クル説ナランニハ本官モ或ハ賛成ヲ表セントス然ルニ五十番ノ説此ニ出テスシテ彼ニ出テタルハ結局郡參事會云々ノ文字ヲ削除スレハ如何ニ之ヲ行ハントスルモ能ハサル故ニ已ムヲ得ス郡制ノ具ハルヲ待ツナラントノ考案ナル可シ果シテ然ラハ其説ハ恰モ往來ノ橋板一枚ヲ取放シ是サヘ取放シテ置ケハ往來カ出來ヌカラ別ニ往來留ノ札ヲ貼ルニ及ハヌト云フ如キ者ニシテ甚タ不心切不都合千萬ト言ハサルヲ得ス是レ本官カ現問題ニ反對スル所以ナリ

○五十一番 井田 讓 本官ハ今一回發言ノ權アルヲ以テ十四番ノ誤説ニ對シ一々辯駁ヲ下サントス第一ニ二十四番ハ現問題説ト第二讀會ノ説ト異ナル無シト言ハレシカ本官ノ見ル所ヲ以テスレハ大ニ異ナル所アリ即チ第二讀會ニ於テハ郡參事會府縣參事會及ヒ行政裁判所ヲ開設スル迄ノ間ハ此法律ヲ施行ス可ラストノ説ナリシモ現問題ハ府縣參事會行政裁判所ノ開設ヲ待タステ單ニ郡參事會ノ開設ヲ待タント言フニ止マル是ナリ此

ノ如ク判然タル區別アルニ拘ラス彼此ノ間ニ差異ナシト論スルハ何ツヤ是レ第一ノ誤謬ナリ第二ニ二十四番ハ智識開明ノ度ハ半年ヤ一年ニテ進ム者ニ非ス云々ト陳ヘラレシモ五十番ハ固ヨリ人民ノ進歩ヲ待ツト言ハス本官モ亦三月ヤ四月ノ間ニ人民カ進歩スルモノト豫期シテ問題ヲ賛成セシニハ非ス只直接親密ノ關係アル法律ノ具ハルヲ待テ本案ヲ施行セント言フニ在ルノミ然ルヲ論者ハ人民ノ進歩云々ノ説ヲ捏造シ來リテ現問題ヲ傷ケントス是レ第二ノ誤謬ナリ又十四番ハ先ツ試ミニ町村制ヲ施行シテ十分ニ調練ヲ爲シ實際ノ有様ニ照シテ斟酌折衷ス可キハ之ヲ斟酌折衷シ然ル後ニ始メテ郡制府縣制ヲ施行スルカ可ナリト言ハレシモ政府カ此法律ヲ發行スルハ則チ今日ノ日本ニ適當スル者ト認メラレシモノニシテ之ヲ以テ調練ヲ爲シ稽古ヲ爲スノ意ニハ非サルナリ且十四番ノ説ニ據ルトキハ十分ニ調練稽古ヲ爲シタル上ニテ此法律ニ不可ナル所アレハ之ヲ斟酌取舍スル者ノ如クナレトモ此法律一タヒ定マル以上ハ漫ニ斟酌取舍スルヲ得サル筈ナリ現ニ第三百二十三條ヲ見ルモ前條ノ外特別ノ事情アル地方ニ於テハ町村會及町村長ノ具申又ハ郡參事會ノ具申ニ依リ勅令ヲ以テ此法律中ノ條規ヲ中止スルコトアル可シト有リ此ニ由テ之ヲ觀レハ地方ノ情況ニ依リ時トシテ此法律中ノ條規ヲ中止スルコト有ルモ決シテ斟酌取舍スルコトヲ得サルハ明々白々タリ然ルニ論者ハ調練斟酌等ノ語ヲ以テ原案ヲ維持シ現問題ヲ排斥スル理由ノ援兵ト爲セルハ何故ツヤ是レ第三ノ誤謬ナリ又十四番ハ郡長ハ單ニ訴願ヲ聽クノミノ如ク辯セラレシカ其然ラサルハ次條ヲ一讀シテ明カナラン是レ第四ノ誤謬ナリ又十四番ハ郡長其人カ此制度ノ

精神ヲ合點シテ郡參事會ノ職務ヲ行ハ、毫モ不都合ナカラント説カレシモ今日ノ郡長ハ此制度ヲ行フニ適セサルヲ奈何セン何ヲ以テ之ヲ言フ即チ今日ノ郡長ハ土地ノ事情ヲ熟知セシ者ノミニ非ス又學識經驗ニ富メル者ノミニ非サレハナリ斯ル有様ナルヲモ願ミスシテ郡參事會ノ職務ヲ郡長ニ委任セントスルハ抑モ何事ツ是レヲ第五ノ誤謬トス以上ニ陳述スル如クナルヲ以テ十四番カ主トシテ論スル所ハ一モ取ルニ足ラサルナリ何卒各官ニ於テモ十四番ノ説ニ迷ハサレズシテ現問題ノ旨趣ハ此法律ノ精神ヲ全ウシ且萬世憲法ノ基礎タル此法律ヲシテ毫モ遺憾ナカラシムルニ在ルコトヲ領解セラレシコトヲ希望ス

○十四番 渡邊 五十一番ハ本官ノ説ヲ誤解シテ反駁ヲ加ヘタルニ依リ之ニ對シテ一辯セ

○議長 十四番ハ既ニ一回ノ發言ヲ爲シタルニ非スヤ

○十四番 渡邊 然リ現問題ニ對シテ既ニ一回ノ發言ヲ爲シタレトモ五十一番カ本官ノ説ヲ誤解シ且本官ノ曾テ言ハサルコト迄モ之ヲ言ヒシ如クニ辯駁シタレハ之ニ對シテ一辯セサルハ残念ナリトウツヤ今一回ノ發言ヲ許サレンコトヲ請フ

○議長 如何ナル事情アルニモセヨ二回ノ發言ハ規則ノ許サ、ル所ナルヲ以テ之ヲ許サ

○外十四番 大森 現問題ニ付テハ別段ニ陳述スル程ノコトモ無カラント思ヒ只今マテ沈黙ヲ守リシカ追々現問題カ勢力ヲ得ルノ景况アルヲ以テ已ムヲ得ス一言セン成程郡制ヲ

施行シ郡ノ行政ヲ改良スル上ニ付テ郡參事會ノ必要ナルコトハ固ヨリ論スル迄モ無ク又町村制ヲ町村ニ施行スルニ付テモ郡參事會カ其監督ニ參與スルコトハ毫モ疑ヒヲ存セス然レトモ素ト町村制ヲ施行スルハ町村會ト町村吏員ニシテ郡ト郡參事會トハ只タ之ヲ監督スルニ過キサレハ本案即チ町村制施行ノ上ニ付テハ深ク郡ノ役人如何ヲ問フノ必要ナカラント信ス尤モ其監督ヲ重シトスルトキハ五十一番ノ説ク所一理ナキニハ非サレトモ其監督ヲ行フコトカ今日ノ郡長ノ力ニ適セスト言フニ至テハ本員等其何故タルヲ解セス又毫モ其論理ニ甘服スル能ハサルナリ元來五十番及ヒ五十一番ハ郡參事會ノ出來サル間ハ此制度ヲ施行シ難キカ如クニ論セラル、モ其決シテ然ラサルコト第百十九條ヲ一讀セハ思ヒ半ハニ過グルモノ有ラン即チ第百十九條ニ「町村ノ行政ハ第一次ニ於テ郡長之ヲ監督シ第二次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第三次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス但法律ニ指定シタル場合ニ於テ郡參事會府縣參事會ノ參與スルハ別段ナリトスト」ト有リ此ニ由テ之ヲ觀レハ町村行政ノ監督權ハ當然郡長ニ屬シ郡長其人アレハ必シモ郡參事會ノ參與ヲ待タサルヤ明瞭ナリ然ルヲ首タル郡長ヲ輕視シ却テ從タル郡參事會ニ重キヲ歸シ郡參事會ヲ開設セサレハ此町村制施行ス可ラスト論スルハ少シク輕重ヲ失シタル説ト言ハサルヲ得ス之ヲ要スルニ此町村制ハ郡參事會及ヒ府縣參事會ノ開設ニ依テ變更ヲ生スル者ニ非ス已ニ郡參事會府縣參事會ノ開設ニ依テ變更ヲ生セサル者タル以上ハ其開設ヲ待タズシテ之ヲ施行スルモ何ノ不可ナルコトカ之レ有ラン且五十一番ハ十四番ノ陳述セラレシ訓練警古斟酌改良云々ハ町村制ノ整頓施行ニ從テ府



縣ノ事務ヲ改正スルノ意ニシテ決シテ五十一番ノ駁スル如キ意味ニハ非サラント推測ス因テ原案維持ノ爲メニ之ヲ一言スルコト爾リ

○九番榎村 本官モ當問題ニハ不同意ナリ只今五十一番ハ十四番ノ説ニ對シテ是モ間違ヒ彼モ誤リト一々駁撃セラレレカ其駁論ハ毫モ現問題ノ非ナルヲ救フニ足ラサレハ本官敢テ之ヲ辨駁セス全體本官ハ第二讀會ニ於テモ五十番ノ説ニ反對セシカ今ヨリ之ヲ思ヘハ第二讀會ノ説ハ當問題ニ優レル萬々ナルカ如シ何トナレハ第二讀會ニハ第三百二十條ヲ抹殺シ去ラントノ説ナリシヲ以テ其説ハ無法過激ナルモ其理窟ノミハ稍ヤ解カリシ者ナレトモ只今ノ問題即チ府縣參事會及ヒ行政裁判所ノ開設ヲ待タスシテ單ニ郡參事會ノ開設ヲ待タントノ説ニ至テハ九テ理窟モ何モ解カラサル者ナレハナリ而シテ現問題發議者ノ旨趣ハ何レニ在リヤト言フニ即チ此條ノ郡參事會云々ヲ削除スレハ自ラ郡制ノ整フマテ此法律ヲ施行スルコト能ハサラント云フニ在リ洵ニ巧ミナル修正ト言フ可シ然レトモ其巧ミナル修正ノ發議者ハ他日郡制ヲ議スルニ際シ府縣參事會ヲ開設スル迄ノ間ハ郡制ヲ施行ス可ラストノ議論ヲ發スルヤモ測リ難シ果シテ然ルトキハ結局現問題ハ第二讀會ノ説ト同様ニシテ體裁ノ好キ廢案説ト見做サ、ルヲ得ス若シ廢案ヲ可ナリトセハ宜シク明カニ廢案ヲ唱フヘシ表面ハ僅ニ六七字ヲ削ル如クニ見セ掛ケ隱ニ廢案ト同様ノ結果ヲ收メントスルハ本官等ノ快シトセサル所ナリ故ニ本官ハ現問題ノ速ニ消滅シテ原案ニ可決センコトヲ希望ス

○三十六番安藤 本官モ九番ト同感ニシテ頗ル現問題ニ不同意ナリ抑モ第三百三十條ハ此

制度ヲ實施スル順序ニ付テ必要缺ク可ラサルノミナラス本案百數十條ノ中ニ於テモ最モ緊要ノ關係ヲ有スル者ニシテ之ヲ人ノ身ノ上ニ譬フレハ精神トモ言フ可キ大切ナル箇條ナリ然ルニ發議者カ輕々ニ之ヲ見做シテ或ハ削除セント言ヒ或ハ修正セント言フハ蓋シ一ヲ見テ二ヲ見サルニ坐スルノミ要スルニ前後ノ關係如何ヲ顧ミス又此條ノ至極大切ナルヲ思ハスシテ漫ニ修正ヲ加フルハ甚タ容易カラサル儀ナリ因テ現問題ヲ贊成セス

○議長 討議已ニ盡キタルヲ以テ現問題ノ決ヲ取ラン即チ五十番ノ修正説ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者十人

○議長 少數ナルヲ以テ消滅ス且他ニ發議モ有ラサレハ朗讀ノ分ハ可決ト認メ次條ニ移ル

書記官西山 朗讀

第三百三十五條 現行ノ租稅中此法律ニ於テ直接稅又ハ間接稅トス可キ類別ハ內務大臣及大藏大臣之ヲ告示ス

第三百三十六條 此法律ハ 年 月 日以後地方ノ情況ヲ裁酌シ府縣知事ノ具申ニ依リ內務大臣ノ指揮ヲ以テ之ヲ施行ス可シ

第三百三十七條 明治九年十月第三百三十號布告各區町村金穀公借共有物取扱土木起功規

則、明治十一年七月第十七號布告郡區町村編制法第六條及第九條但書、明治十七年五月第十四號布告區町村會法、明治十七年五月第十五號布告、明治十七年七月第二十三號布告明治十八年八月第二十五號布告其他此法律ニ抵觸スル成規ハ總テ之ヲ廢止ス

第九百二十八條 內務大臣ハ此法律實行ノ責ニ任シ之カ爲メ必要ナル命令及訓令ヲ發布ス可シ

○議長 別段發議ナキヲ以テ只今朗讀ノ分ハ可決ト認メ此ニ第三讀會ヲ畢ル且第三讀會ニ於テ多少修正ニ決シタル條項アレトモ其ハ十分審議ヲ盡サレタル上ノコトナレハ此第三讀會ヲ確定決議會ト見認メン

○九番正直 只今議長席ニ於テハ第三讀會ヲ確定決議會ト見認ル旨ヲ宣告セラレシモ第三讀會ノ修正ニ依リ多少異同ヲ生シタル條項アリ故ニ之ヲ整頓一致スル爲メ確定決議會ヲ開カレンコトヲ請フ

○議長 確定決議會ニ付テハ本官大ニ意見アレトモ已ニ之ヲ開キタル先例アル以上ハ衆議ニ問フテ之ヲ開クモ亦可ナラン因テ九番ノ請求スル如ク確定決議會ヲ開クヤ否ヤハ議場ニ問フテ決セン衆議官以テ如何ト爲ス

○十四番 渡邊 九番ニ問フ確定決議會ヲ開キテ第三讀會ノ修正ニ依リ生シタル異同ヲ正サントスルヤ或ハ又第三讀會ニ於テ修正ニ決シタル所ヲ持直サントスルヤ  
○九番正直 第二讀會ニ於テ削除ニ決シタル退隱料ノ條項ヲ第三讀會ニ於テ回復セシニ

依リ之ニ牽連シテ凡ソ三四ヶ條許リ直ス所アリ故ニ已ムヲ得ス確定決議會ヲ開カント請ヒシノミ決シテ其他ノ條項ヲ議セントスル爲ニハ非サルナリ

○五十番 安 第三讀會ニ於テ修正ニ決シタル條項アルトキハ其終リニ臨ミ第三讀會ヲ以テ確定決議會ト爲スヤ否ヤヲ議場ニ問フカ從來ノ慣例ニシテ只今ノ如ク議長席ニ於テ直チニ確定決議會ト認メラレシ例アルヲ見ス而シテ本案ハ一大新法ニモ有リ殊ニ第三讀會ニ至リ紛々タル議論ヲ生シタル程ニモ有レハ鄭重ノ上ニ鄭重ヲ加ヘン爲メ特ニ

確定決議會ヲ開キテ前後ノ條項ヲ整頓スルハ固ヨリ可ナリ然レトモ今日直チニ確定決議會ヲ開キテ前後ノ條項ヲ揃ヘントスレハ或ハ前年官報發行ノ件ノ確定決議會カ第四讀會ト爲リシ如キ結果ヲ生センモ未タ知ル可ラス故ニ本官ハ先ツ書記官ヲシテ前後ノ

條項ヲ取揃ヘシメ尙ホ修正委員ニ於テ一應之ヲ點檢シ然ル後ニ明日カ明後日ヲ待テ開會セラレンコトヲ希望ス果シテ此ノ如クスルトキハ徒ニ紛議ヲ生スルノ憂ヒ無カラシム

因テ之ヲ建議ス  
○九番正直 五十番ノ說ハ一理アリト考フレトモ或ハ條項ヲ取揃ルニ止マラスレテ字句ノ改正ヲ要スル有ランモ知ル可ラス故ニ本官ハ免モ角モ今日確定決議會ヲ開カレンコトヲ望ム

○議長 確定決議會ハ曾テ一回之ヲ開キシ例モ有リ又第三讀會ヲ以テ確定決議會ト爲スヤ否ヤヲ衆議ニ問ヒシ例モ有リ又之ヲ衆議ニ問ハスシテ議長ヨリ確定決議會ト認ムル旨ヲ宣告シタル例モ有リ故ニ本官ハ先例ニ依リ衆議ニ問ハスシテ第三讀會ヲ確定決議

會ト認ムル旨ヲ宣告セシカ現ニ第三讀會ノ修正ニ依リ異同ヲ生シタル所アリト言フ以上ハ其儘ニ通過セシムルモ不可ナルニ似タリ因テ只今ノ宣告ヲ取消シ改メテ第三讀會ヲ確定決議會ト見做スヤ否ヤノ決ヲ取ラン然スルトキハ九番ノ請求セシ如ク之ヲ開クト開カサルトハ自然ニ決スルナラント信ス

○九番<sup>榎村</sup> 只今ノ宣告ニ從フモ敢テ不可ナル無シ然レトモ萬一第三讀會ヲ確定決議會ト見做スニ決スルトキハ前後不連續ノ案ナルコトヲ知リツ、其儘ニ上奏セサルヲ得ス是レ本官カ特ニ建議スル所以ナリ右ノ次第ナルヲ以テ何卒本官ノ建議ヲ採用アラシコトヲ切望ス

○五十番<sup>三浦</sup> 確定決議會ヲ開クノ必要アレハ之ヲ開クモ可ナリ然レトモ其之ヲ開クハ必シモ今日ニ限リタルコトニ非ス况ヤ今日直チニ之ヲ開カハ徒ニ混雜ヲ生スルノ虞アルニ於テヲヤ殊ニ最早時刻モ移リタレハ他日ヲ待テ確定決議會ヲ開カレンコトヲ望ム  
○議長 段々九番ノ請求モ有リ五十番ノ説モ有ルヲ以テ別ニ衆議ニ問フ迄モナク確定決議會ヲ開クモノト爲シ只今之ヲ開クカ或ハ他日之ヲ開クカノ決ヲ取ラン

○四十九番<sup>神田</sup> 九番ニ問フ確定決議會ニ於テ提出セントスル論點ハ如何ン  
○九番<sup>榎村</sup> 幸ニ四十九番ノ質問アルヲ以テ本官カ確定決議會ニ於テ提出セントスル意見ノ概略ヲ陳ヘン即チ第一ニ第十五條第二項ナル「現職」ノ二字ヲ原案ニ復シ第二ニ第五十七條ノ末文ナル「此場合ニ於テハ退隱料ヲ受クルノ權ヲ失フモノトス」ノ二十三字ヲ原案ニ復シ第三ニ第六十二條第四項ナル「第七十七條第七十八條」ノ十字ヲ削リ第四ニ

第三章第三款ノ下ナル「給與」ノ文字ヲ取消シ原案ノ如ク「退隱料」ト爲シ從テ目錄中ノ「給與」ヲ「退隱料」ト爲ス是ナリ若シ此他ニ改正ヲ要スル有ラハ各官ノ説ニ從ハント欲ス

○五十番<sup>三浦</sup> 只今九番ノ説ヲ開クニ一々尤ナルカ如シ去リ乍ラ第六十二條ニ係ル意見ハ今直チニ其可否ヲ辨スル能ハス故ニ本官ハ矢張他日開會アラシコトヲ望ムナリ

○九番<sup>榎村</sup> 本官ハ今日直チニ開會セラレンコトヲ希望スルモ本日開會スルト他日開會スルトノ相異ヨリシテ或ハ確定決議會ヲ開クニ同意スル者ヲ失ハンモ知ル可ラス因テ確定決議會ヲ開クヤ否ヤノ點ト之ヲ本日開會スルヤ否ヤノ點トハ別ニ取決セラレンコトヲ請フ

○議長 別ニ取決ヲ要セシテ來ル三十一日ニ確定決議會ヲ開カン各位之ヲ領シ散會セヨ  
午後第三時十五分開場

○明治二十一年一月三十一日 確定決議會

議長<sup>大木</sup> 齋任

○出席議員

三番

永山 盛輝

六番

宮本 小一

楠本 正隆

石井 忠亮

八番

九番	榎村 正直	四十番	綿貫 吉直
十三番	伊集院兼寛	四十一番	長岡 護美
十四番	渡邊 清	四十三番	田邊 太一
十五番	大久保一翁	四十五番	時任 爲基
十六番	伊東 祐啓	四十六番	橋口 兼三
十七番	壬生 基修	四十七番	野村 素介
十九番	田中 芳男	四十九番	神田 孝平
二十番	岩村 定高	五十番	三浦 安
二十二番	中村 正直	五十一番	井田 讓
二十三番	久我 通久	五十四番	加藤 弘之
二十五番	中島 錫胤	五十五番	調所 廣丈
二十六番	河田 景與	五十六番	林 友幸
二十七番	尾崎 三良	五十七番	神山 郡廉
二十八番	原田 一道	五十九番	長松 幹
三十一番	長谷部辰連	六十番	伊丹 重賢
三十四番	小畑 美裕	六十一番	楫取 素彦
三十五番	津田 眞道	六十三番	渡邊 驥
三十七番	山口 尙芳	六十五番	西 周

午前第十一時開場

○議長 第五百五十九號議案ノ確定決議會ヲ開ク然ルニ確定決議會ニ付テハ別ニ一定ノ  
 例規ナキヲ以テ先例ニ從ヒ總テ第三讀會ノ規則ヲ適用セン而シテ本會ノ決議ニ付ス可  
 キハ第五十七條第六十二條第七十九條第八十條及ヒ第二百二十八條ノ五ヶ條ニ過キサレ  
 ハ便宜ノ爲メ以上ノ五ヶ條ヲ連帶シテ議題ニ付シ又連帶シテ決ヲ取ラントス各位之ヲ  
 領セヨ乃チ書記官ヲシテ之ヲ朗讀セシメン

書記官 西山 朗讀

第五十七條

得ノ下「此場合ニ於テハ退隱料ヲ受クルノ權ヲ失フモノトス」ノ字ヲ復ス

第六十二條

四行目ノ「第七十七條第七十八條及第七十九條第八十條」ノ二十字ヲ削リ六十一條ノ

下ニ及ノ字ヲ加フ

第七十九條

第八十條

此二條ヲ前後ニス  
第二百二十八條

第三( )ノ内第五十七條ノ字第三讀會ニテ挿入ノ處之ヲ削ル

○九番横村 只今朗讀ノ通り修正ヲ加ヘントスル理由ヲ略陳セン第五十七條ニ於テ此場  
合ニ於テハ退隱料ヲ受クルノ權ヲ失フモノトスノ二十三字ヲ原案ニ復スルハ第三讀會  
ニテ退隱料ニ係ル條項ヲ回復シタルニ由ル第六十二條ニ於テ「第七十七條第七十八條  
及第七十九條第八十條」ノ二十字ヲ削リ而シテ「第六十一條」ノ下ニ及ノ一字ヲ加フルハ  
原案ニハ收入役ニ有給無給ノ二様アリシ故ニ適用ノ條項ヲ掲ケシモ之ヲ修正シテ收入  
役ヲ悉ク有給ト爲セシ以上ハ特ニ其適用ス可キ條項ヲ掲ケルノ必要ナキニ由ル第七十  
九條第八十條ノ位置ヲ顛倒スルハ別段意味アルニ非ス畢竟第三讀會ニ於テハ後條ヲ讀  
了セシ後ニ前條ヲ回復セシヨリ止ムヲ得スシテ兩條ノ地ヲ易ヘシカ是ハ矢張り下付原  
案ノ如クスルヲ適當ナリト認メタルニ由ルノミ此他第二百二十八條ヲ修正スル理由ハ五  
十番ノ説明ニ譲ラン

○五十番三浦 第三讀會ニ於テハ第二百二十八條第三ノ括弧中ニ「第五十七條」ノ文字ヲ加  
ヘタルハ蓋シ内閣委員ノ答辯ニ起因シ本官ノ説ニ胚胎シ五十一番ノ説ニ成レルナラン  
モ退テ熟考スルトキハ右ノ決議ハ全ク一時ノ誤謬ナリ是レ畢竟内閣委員ノ答辯ヲ信ス  
ルノ厚キヨリ此ニ至リシナランモ既ニ其誤謬ナルヲ覺リレ以上ハ斷然之ヲ削除セサル  
可ラス而シテ之ヲ削除セハ第三讀會ノ決議ノ意味ヲ變スルヤト言フニ決シテ然ラサル

ナリ故ニ今之ヲ削除シテ誤謬ヲ正サントスルノミ

○三番白根 第三讀會ニ於テ第五十七條ノ文字ニ付キ内閣  
外者ヲ掲ケスニ云々ト辯明セシハ全ク誤リナリキ因テ此  
タル者ヲ掲ケスニ云々ト辯明セシハ全ク誤リナリキ因テ此

○八番楠本 只今内閣委員ハ第三讀會ニ於ケル辯明ノ誤リ  
リ内閣委員ノ誤リニ非スシテ本官等モ亦誤テ五十一番  
本會ニ於テハ必ス九番及五十番ノ言ノ如クナランコ  
レハ本官復タ贅辯ヲ須ヒス只切ニ望ムラクハ提出

○五十一番井田 修正委員ノ提出案ニ付テハ已ニ九  
レハ本官復タ贅辯ヲ須ヒス只切ニ望ムラクハ提出

○十四番清渡 賛成

○十三番伊集院 賛成

○五十四番加

○五十六番林

此二條ヲ前後ニス  
第二百二十八條

第三(一)ノ内第五十七條ノ字第三讀會ニテ挿入ノ處之ヲ削ル

○九番<sup>○</sup>正<sup>○</sup>直<sup>○</sup>村<sup>○</sup> 只今朗讀ノ通り修正ヲ加ヘントスル理由ヲ略陳セン第五十七條ニ於テ此場  
合ニ於テハ退隱料ヲ受クルノ權ヲ失フモノトスノ二十三字ヲ原案ニ復スルハ第三讀會  
ニテ退隱料ニ係ル條項ヲ回復シタルニ由ル第六十二條ニ於テ第七十七條第七十八條  
及第七十九條第八十條ノ二十字ヲ削リ而シテ第六十一條ノ下ニ及ノ一字ヲ加フルハ

役ニ有給無給ノ二様アリシ故  
爲セシ以上

用ノ條項ヲ掲ケシモ之ヲ修正シテ收入

立

除項ヲ掲ケルノ必要ナキニ由ル第七十

非ス畢竟第三讀會ニ於テハ後條ヲ議

味ノ地ヲ易ヘシカ是ハ矢張り下付原

第二百二十八條ヲ修正スル理由ハ五

司法省文庫  
第 5242 號

弧中ニ「第五十七條」ノ文字ヲ加

シ五十一番ノ説ニ成レルナラン

レ畢竟内閣委員ノ答辯ヲ信ス

以上ハ斷然之ヲ削除セサル

ヤト言フニ決シテ然ラサル

